第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)　　(2019年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5　白楽ｺﾐｭﾆﾃｨﾌﾟﾗｻﾞ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647　菅田町ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞﾙ1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3　まるあﾋﾞﾙ1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12　ｽｶｲﾋﾞﾙ21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107　ﾗｲﾌ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鵜養医院	南区吉野町3-7-2	334-8753
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34　森ﾋﾞﾙ1F	720-6008
あずま医院	南区清水ケ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30　ｻﾝﾗｲｽﾞ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ケ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ケ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ケ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11　田口ﾋﾞﾙ1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
冨野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1　大倉山ﾊｲﾑ1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200　菊名ﾚｼﾞﾃﾞﾝｼｱﾌﾟﾗｻﾞ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2　ﾎｰﾒｽﾄﾌﾟﾗｻﾞ十日市場西館101	989-6388
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45　沖商事ﾋﾞﾙ102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14　ﾍﾞﾙﾃﾞｾｿﾞﾝ1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46　踊場ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1　ｹｱﾊｳｽゆうあい4階B号室	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14　ｱｲｴｲﾁﾋﾞﾙⅡ　1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3　ｸﾞﾗﾝﾃﾞｭｰﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1　三ツ境ﾗｲﾌB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11　ｺｺﾌｧﾝ横浜鶴見1F	506-3657
優美子供クリニック	鶴見区駒岡5-5-12　武田ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ4階	576-6226
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4　ｵﾙﾄﾖｺﾊﾏﾋﾞｼﾞﾈｽｾﾝﾀｰ1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7　東神奈川ｲｰｽﾄｱｰｸﾋﾞﾙ1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
かめのはしクリニック	中区石川町3-108-1	226-2818
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2　小菅医療ﾋﾞﾙ4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653

医療機関名	所在地	電話番号
みやじ小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
相原アレルギー科・小児科クリニック	南区高根町3-17 ｽﾄｰｸ大通り公園参番館201号	261-0737
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1　いずみﾌﾟﾗｻﾞ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1　ｶﾐｵ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ケ谷区星川2-4-1　星川SFﾋﾞﾙ4F	336-2260
おざき小児科	保土ケ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ケ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ケ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ケ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ケ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58　大洋ﾋﾞﾙ2F	361-0212
サンクリニック小児科	旭区柏町127　相鉄南万騎が原第4ﾋﾞﾙ102	366-6821
川島医院	旭区上白根町891　西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区下町8-16　1F	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11　高野第2ﾋﾞﾙ2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区瀬戸19-14　金沢八景金井ﾋﾞﾙ3F	350-6277
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1　長谷川ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19　福島ﾋﾞﾙ1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 ﾒﾃﾞｲｶﾙﾓｰﾙﾌﾞﾗｻﾞｰ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26　MKﾊｲﾑ1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22　ﾅﾋﾞｳｽ大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3　ﾀﾞｲｱﾊﾟﾚｽ鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山5-29-18	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1　土井ﾋﾞﾙ1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2　あざみ野ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
あざがみクリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ﾗｲﾑﾗｲﾄ松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 ﾄﾞﾑｽ有本101	901-6870
はなわ小児科内科クリニック	青葉区藤が丘1-28-3 ｳｲｽﾀﾘｱ28-2F	972-1515
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ケ崎南5-1-10 ﾉｰﾌﾞﾙ茅ケ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
サウスウッドこどもクリニック	都筑区茅ケ崎中央6-1 ｻｳｽｳｯﾄﾞ3F	942-7700
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1101-6	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 ﾏｻｶﾋﾞﾙ1F	823-7866
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ1F	865-6666
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2353
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 ﾓﾚﾗ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 ｱｲｴｲﾁﾋﾞﾙⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
ふくだ小児クリニック	泉区上飯田町938-1 いずみ中央ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ3F	805-1020
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOﾋﾞﾙ2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 ｶｻ･ﾃﾞ･ﾊﾟﾃｨｵ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 ｻﾆｰﾊｲﾂ三ツ境1F	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわﾒﾃﾞｨｶﾙｳﾞｨﾚｯｼﾞ内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 ﾄﾐﾔﾋﾞﾙ4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田ﾒﾃﾞｨｶﾙﾋﾞﾙ2F	571-5861
矢島眼科医院	神奈川区片倉5-1-1 ARﾋﾞﾙ3F	482-1950
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ｽﾄｰｸﾋﾞﾙ秋山1F	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ﾐｵｶM202	842-0380
和田町眼科クリニック	保土ケ谷区和田1-13-21 工藤ﾋﾞﾙ2F	337-2823
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSﾋﾞﾙ2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ｳﾞｨﾗ綱島ﾋﾞﾙ1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ﾋﾞﾙ1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 ｱﾋﾟﾀ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10　第3ﾌｼﾞﾓﾄﾋﾞﾙ2F	985-3719
たちはら眼科クリニック	都筑区北山田1-9-3 EKINIWA KITAYAMATA 1F	595-2110
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5　ARKﾋﾞﾙ3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2　相鉄ﾗｲﾌﾋﾞﾙ2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3　ｸﾞﾗﾝﾃﾞｭｰﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	302-6337

性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院	西区北幸1-11-5　相鉄KSﾋﾞﾙ2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1　ｿﾌｨｱﾖｺﾊﾏ1F	263-0820
由利泌尿器科クリニック	南区井土ケ谷下町213　第2江洋ﾋﾞﾙ4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2　ﾙｽ･ﾃﾞ･ﾙﾅ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ケ谷区帷子町1-30-1　ｸﾎﾞﾀﾋﾞﾙ2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ケ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3　第7ﾊﾟﾚｽ桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1　ﾌﾟﾗﾗSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
金沢文庫レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31　ﾋﾙｽﾞ･ｶﾓ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖マリアクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24　ｱﾋﾞﾃﾉｰﾙ3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26　ﾋﾞｸﾄﾘｱｾﾝﾀｰ南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1　ｹｱﾊｳｽゆうあい4階B号室	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19　斉藤ﾋﾞﾙ2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27　ﾈｸｽﾄｱｲ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29　瀬谷ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	保土ケ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科 （小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院 （内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科 （眼科）	中区伊勢佐木町6-143-2 ITﾋﾞﾙ1F	261-1103
片山こどもクリニック （小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｱﾙﾀﾞ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院 （基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院 （基幹）	保土ケ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科 （小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック （内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院 （内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック （小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科 （小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 ﾄﾞﾑｽ有本101	901-6870
はやし小児科医院 （小児科）	青葉区松風台13-5 ﾗｲﾑﾗｲﾄ松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院 （基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院 （内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
瀬谷こどもクリニック （小児科）	瀬谷区中央1-10 ｶｻ･ﾃﾞ･ﾊﾟﾃｨｵ2F	304-0045
清水小児科 （小児科）	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわﾒﾃﾞｨｶﾙｳﾞｨﾚｯｼﾞ内	360-9191

疑似症定点(7)

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	南区浦舟町4-57	261-5656
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院	保土ケ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
横浜市立大学附属病院	金沢区福浦3-9	787-2800
横浜労災病院	港北区小机町3211	474-8111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制　　定　平成 12 年 11 月 27 日衛　感第 340 号（局長決裁）
最近改正　平成 31 年 4 月 1 日健健安第 2982 号（局長決裁）

第１　趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第２　対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

１　全数把握の対象

一類感染症

(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱

二類感染症

(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＳＡＲＳコロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＭＥＲＳコロナウイルスであるものに限る。）、(13)鳥インフルエンザ（H5N1）、(14)鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス

四類感染症

(20)Ｅ型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)Ａ型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Ｑ熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Ｂウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く。)、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（ポリオを除く。)、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群 (73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。)、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84) 百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2　定点把握の対象

五類感染症（定点）

(88)ＲＳウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、(98)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)、(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎、(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症、(105)クラミジア肺炎（オウム病を除く。)、(106)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(114) 発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

3　オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13)鳥インフルエンザ（H5N1）

第３　実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第４　実施体制の整備

１　横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

２　指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1)　健康福祉局は、定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第 14 条第１項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2)　健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第７条の２に規定する五類感染症については、法第 14 条の２第１項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

３　横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

４　検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体等の検査の業務管理要領」（健感発 1117 第２号平成 27 年 11 月 27 日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、健康福祉局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整する。

第５　事業の実施

1　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1)　調査単位及び実施方法

ア　診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ　検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式１「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体)」(以下、別記様式１という。）の検査票を添付して提供する。

ウ　福祉保健センター

(ｱ)　届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

(ｲ)　福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式１を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

(ｳ)　福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式１を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。

(ｴ)　福祉保健センターは、キ(ｱ)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式１等により速やかに送付する。

(ｵ)　なお、迅速な対応が必要な疾患については、健康福祉局と協議の上、対応する。

エ　健康福祉局

(ｱ)　健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ｱ)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。

(ｲ)　健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

(ｳ)　感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

(ｴ)　緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

(ｵ)　迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行うウ(ｲ)から(ｴ)までの対応は、健康福祉局が行う。

オ　感染症情報センター

(ｱ)　感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ｱ)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。

(ｲ)　感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ　衛生研究所

(ｱ)　衛生研究所は、別記様式１及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式１により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

(ｲ)　検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(ｳ)　衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

２　定点把握対象の五類感染症

(1)　対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2)　定点の選定

ア　患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

イ　病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、医師会等の協力を得て原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口について国要綱に定めるとおりとする。

(3)　調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4)　実施方法

ア　患者定点

(ｱ)　患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(ｲ)　２の(ｱ)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ｳ)　(ｲ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ　病原体定点

(ｱ)　病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。

(ｲ)　病原体定点は、検体等について、別記様式２「病原体定点からの検査依頼書」（以下、「別記様式２」という。）を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

(ｳ)　(2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第２の(86)から(96)について、調査単位ごとに、概ね４症例からそれぞれ少なくても１種類のを送付する。

(ｴ)　(2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第２の(97)に掲げるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに、少なくとも１検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、健康福祉局の定める単位ごとに送付するものとする。

ウ　検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式１を添付して提供する。

エ　福祉保健センター

(ｱ)　福祉保健センターは、ア(ｳ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の３日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式１を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び

実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

(ｲ)　福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式１を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。

(ｳ)　福祉保健センターは、カ(ｱ)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式１により速やかに送付する。

オ　健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

カ　感染症情報センター

(ｱ)　感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、届出情報の確認を行い、感染症発生動向調査システムに入力する。

(ｲ)　感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ　衛生研究所

(ｱ)　衛生研究所は、イ(ｲ)により別記様式２及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式２により病原体定点に通知するとともに、健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

(ｲ)　衛生研究所は、エ(ｲ)により別記様式１及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式１により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

(ｳ)　検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(ｴ)　衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

3　法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1)　対象とする疑似症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2)　疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3)　実施方法

ア　疑似症定点

(ｱ)　疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。

(ｲ)　(2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として汎用サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。

(ｳ)　(ｲ)の届出に当たっては法施行規則第 7 条に従い行う。

イ　健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

ウ　感染症情報センター

(ｱ)　感染症情報センターは、疑似症定点において汎用サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、汎用サーベイランスシステムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局および中央感染症情報センターへ報告する。

(ｲ)　感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

4　オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1)　福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体等が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体等を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

(2)　感染症情報センター

ア　感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ　医療機関より検体等が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

(3)　衛生研究所

ア　衛生研究所は、検査依頼票及び検体等が送付された場合にあっては、当該検体等を別に定める病原体検査要領に基づき検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ　鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあっては、法施行規則第９条第２項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。検体等を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第６　その他

１　感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとるところが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。

２　本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

附　則

（施行期日）

１　この実施要綱は、平成 15 年 11 月５日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 18 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 18 年６月 12 日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 20 年１月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 20 年５月 12 日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 23 年２月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 25 年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

（経過措置）

２　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

1　この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

（経過措置）

2　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

1　この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

（経過措置）

2　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

1　この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。

（経過措置）

2　改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

この要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附　則

（施行期日）

1　この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2　改正前の要綱の規定により調製した帳票は、当面の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附　則

（施行期日）

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

附　則

（施行期日）

この要綱は、平成 31 年４月１日から施行する。

別記様式一覧表

別記様式１　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式２　病原体定点からの検査依頼書（３枚複写式）
（医療機関控）
（衛生研究所控）
（医療機関あて検査結果通知用）

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正　平成 23 年５月 24 日　健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第１条　横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第３条　委員会は、委員６人以上 10 人以下をもって組織する。

２　委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

(1) 学識経験者

(2) 横浜市医師会を代表する者

(3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第４条　委員の任期は、３年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

２　委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

３　委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第６条　委員会の会議は、委員長が毎月１回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第７条　委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

（関係者の出席等）

第８条　委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第９条　委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

（その他）

第 10 条　本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成 14 年１月１日から施行する。

（経過措置）

２　この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附　則

この要綱は、平成 18 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 23 年５月 24 日から施行する。

平成 31 年 1 月 31 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

平成 31 年 1 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザ流行警報が発令されています。**
- **風しんの報告数が多い状態が続いています。**

全数把握の対象

【1 月期に報告された全数把握疾患】

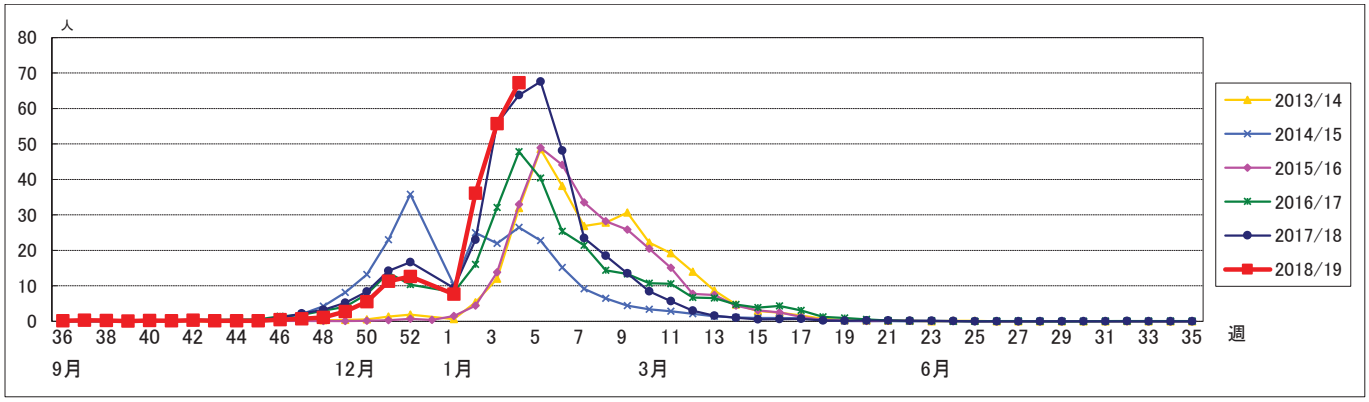
腸管出血性大腸菌感染症	1 件	急性脳炎	5 件
E 型肝炎	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
A 型肝炎	2 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	14 件
マラリア	1 件	水痘（入院例に限る）	1 件
レジオネラ症	5 件	梅毒	5 件
アメーバ赤痢	3 件	百日咳	22 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 件	風しん	31 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：インドでの経口感染と推定される O111 の報告が 1 件ありました。
2 **E型肝炎**：経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
3 **A 型肝炎**：インドでの経口感染と推定される報告が 1 件、同性間の性的接触による報告が 1 件ありました。
4 **デング熱**：フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
5 **マラリア**：トーゴでの蚊からの感染と推定される熱帯熱マラリアの報告が 1 件ありました。
6 **レジオネラ症**：肺炎型の報告が 5 件あり、感染経路等不明です。
7 **アメーバ赤痢**：腸管アメーバ症の報告が 3 件（同性間および異性間の性的接触が 1 件、経口感染が 2 件）ありました。
8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：5 件の報告があり、感染経路等不明でした。
9 **急性脳炎**： インフルエンザ脳症が疑われる報告が 4 件（幼児 2 件、小児 1 件、40 歳代 1 件）、病原体不明の報告が1件ありました。
10 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**： 70 歳代の A 群の報告が 1 件ありました。
11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：80 歳代の報告が 2 件ありました。
12 **侵襲性肺炎球菌感染症**：乳児の報告が 3 件（ワクチン接種あり）、60 歳代の報告が 4 件（ワクチン接種なし 2 件、不明 2 件）、70 歳代の報告が 3 件（いずれもワクチン接種不明）、80 歳代の報告が 4 件（ワクチン接種なし 2 件、不明 2 件）ありました。
13 **水痘（入院例に限る）**：90 歳代の検査診断例の報告が 1 件（ワクチン接種不明）ありました。
14 **梅毒**：5 件の報告（無症状病原体保有者 2 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 1 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 2 件）がありました。感染経路は、異性間の性的接触が 4 件、同性間の性的接触が 1 件でした。男性 2 件、女性 3 件でした。
15 **百日咳**：10 歳未満では乳児が 5 件（ワクチン接種あり 2 件、なし 3 件）、小児が 8 件（ワクチン接種あり 7 件、不明 1 件）の報告があり、10 歳代で 7 件（いずれもワクチン接種あり）、40 歳代で 2 件（いずれもワクチン接種不明）の報告がありました。
16 **風しん**：検査診断例 30 件、臨床診断例 1 件が報告されています。乳児が 1 件（ワクチン接種なし）、幼児が 1 件（ワクチン接種あり）、20 歳代が 10 件（ワクチン接種なし 3 件、不明 7 件）、30 歳代が 6 件（ワクチン接種なし 2 件、不明 4 件）、40 歳代が 6 件（いずれもワクチン接種不明）、50 歳代が 5 件（ワクチン接種なし 1 件、不明 4 件）、60 歳代 2 件（いずれもワクチン接種不明）でした。男性 24 件、女性 7 件でした。

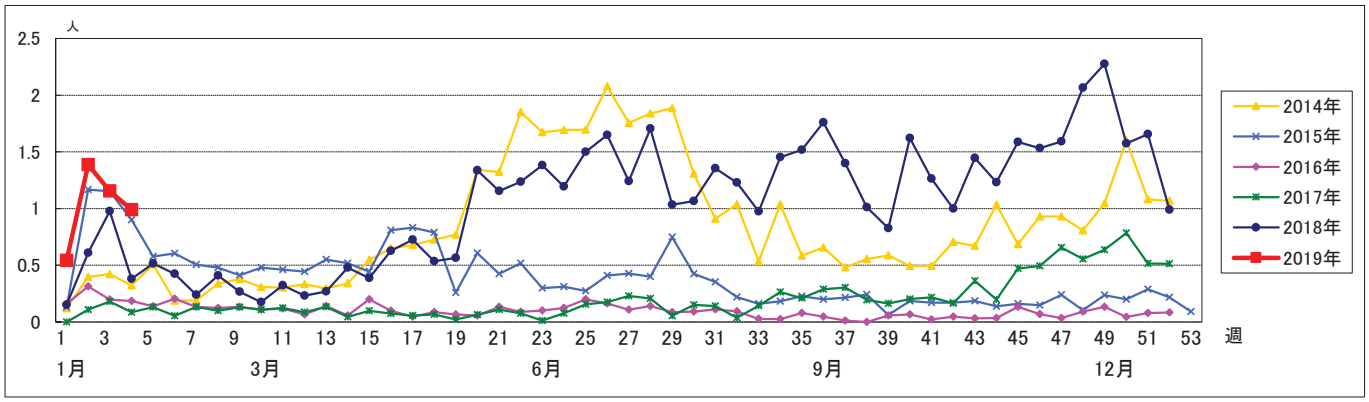
平成 30 年・31 年　週ー月日対照表			
第 52 週	12 月 24 日	～	30 日
第 1 週	12 月 31 日	～	1 月 6 日
第 2 週	1 月 7 日	～	13 日
第 3 週	14 日	～	20 日
第 4 週	21 日	～	27 日

定点把握の対象

1　**インフルエンザ【流行警報報発令中】**:第 48 週にて定点あたり 1.07 にて流行開始、第 51 週にて 11.31 にて注意報発令、第 2 週にて 36.08 にて警報発令基準値(30.00)を上回りました。さらに第 3 週では 55.73、第 4 週では 67.25 と増加し、例年と比べて大幅に報告数が増加した昨シーズンの同時期の報告数を上回っています。



2　**伝染性紅斑**:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移していましたが、第 48 週に 2.07 にて警報発令基準(2.00)を上回りました。2019 年第 1 週以降は警報発令基準を上回っていませんが、第 4 週も 0.99 と依然として高値が続いています。



3　**性感染症**:12 月

性器クラミジア感染症	男性:24 件	女性:17 件	性器ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症	男性: 2 件	女性:10 件
尖圭コンジローマ	男性: 5 件	女性: 1 件	淋菌感染症	男性: 5 件	女性: 4 件

4　**基幹定点週報**:

	第 52 週	第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.25**	0.00	**1.50**	**0.33**	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	**0.67**	0.00

5　**基幹定点月報**:12 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 31 年 2 月 28 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

平成 31 年 2 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザ報告数が警報解除基準値（10.00）を下回りました。**
- **風しんの報告数が多い状態が続いています。**

全数把握の対象

【2 月期に報告された全数把握疾患】

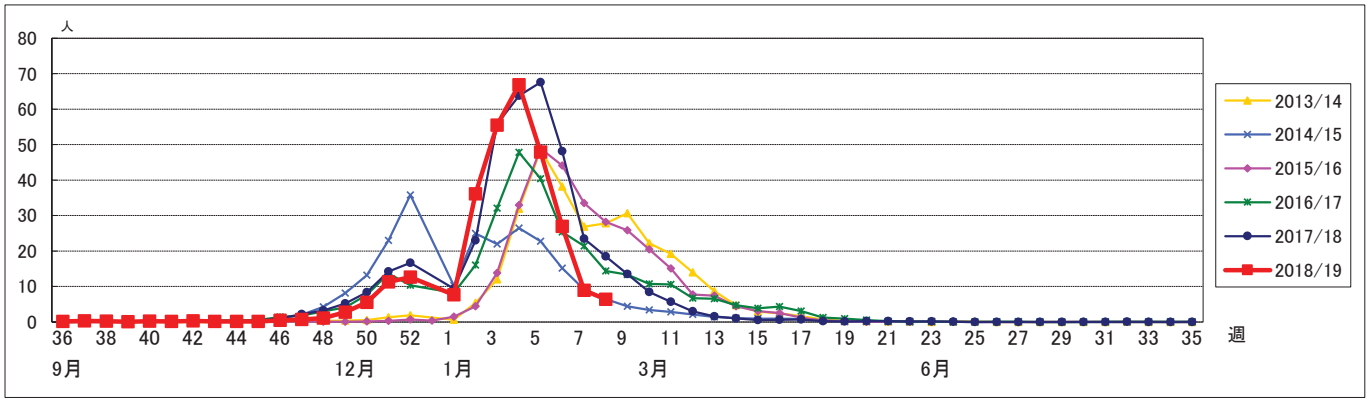
腸管出血性大腸菌感染症	3 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 件
腸チフス	1 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）	2 件
E 型肝炎	2 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
レジオネラ症	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	8 件
アメーバ赤痢	2 件	梅毒	10 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件	百日咳	15 件
急性脳炎	5 件	風しん	16 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件	麻しん	1 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：O157 の報告が 3 件ありました。
2 **腸チフス**：ミャンマーでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
3 **E型肝炎**：経口感染と推定される報告が 1 件、感染経路等不明の報告が 1 件ありました。
4 **レジオネラ症**：肺炎型の報告が 3 件あり、感染経路等不明でした。
5 **アメーバ赤痢**：腸管アメーバ症の報告が 1 件、腸管および腸管外アメーバ症の報告が 1 件あり、いずれも感染経路等不明でした。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：6 件の報告があり、感染経路等不明でした。
7 **急性脳炎**：幼児の報告が 4 件、小児の報告が 1 件あり、病原体はインフルエンザが 4 件、不明が 1 件でした。
8 **クロイツフェルト・ヤコブ病**：その他の孤発性プリオン病の報告が 1 件ありました。
9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：50 歳代の A 群、B 群、90 歳代の G 群の報告が 1 件ずつありました。
10 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**：AIDS の報告が 1 件（同性間性的接触）、その他の報告が 1 件（感染経路等不明）ありました。いずれも男性でした。
11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：80 歳代の報告が 2 件ありました。
12 **侵襲性肺炎球菌感染症**：幼児の報告が 1 件（ワクチン接種あり）、40 歳代の報告が 2 件（ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件）、60 歳代の報告が 2 件（ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件）、70 歳代の報告が 2 件（ワクチン接種なし）、80 歳代の報告が 1 件（ワクチン接種不明）ありました。
13 **梅毒**：10 件の報告（無症状病原体保有者 3 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 4 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 1 件、晩期顕症梅毒 2 件）がありました。感染地域は国内 8 件、台湾が 1 件、不明が 1 件でした。感染経路は異性間性的接触が 8 件、詳細不明の性的接触が 1 件、感染経路不明が 1 件でした。男性 7 件、女性 3 件でした。
14 **百日咳**：10 歳未満では乳児が 2 件（ワクチン接種なし）、幼児が 2 件（ワクチン接種あり）、小児が 6 件（ワクチン接種あり 5 件、不明 1 件）の報告があり、10 歳代で 2 件（ワクチン接種あり 1 件、不明 1 件）、30 歳代で 1 件（ワクチン接種不明）、40 歳代で 2 件（ワクチン接種不明）の報告がありました。
15 **風しん**：検査診断例 16 件が報告されています。20 歳代 6 件（ワクチン接種なし 1 件、不明 5 件）、30 歳代 4 件（いずれもワクチン接種不明）、40 歳代 4 件（ワクチン接種あり 2 件、なし 1 件、不明 1 件）、50 歳代 2 件（ワクチン接種不明）でした。男性 12 件、女性 4 件でした。
16 **麻しん**：フィリピンでの感染と推定される 10 歳代の報告が 1 件ありました。

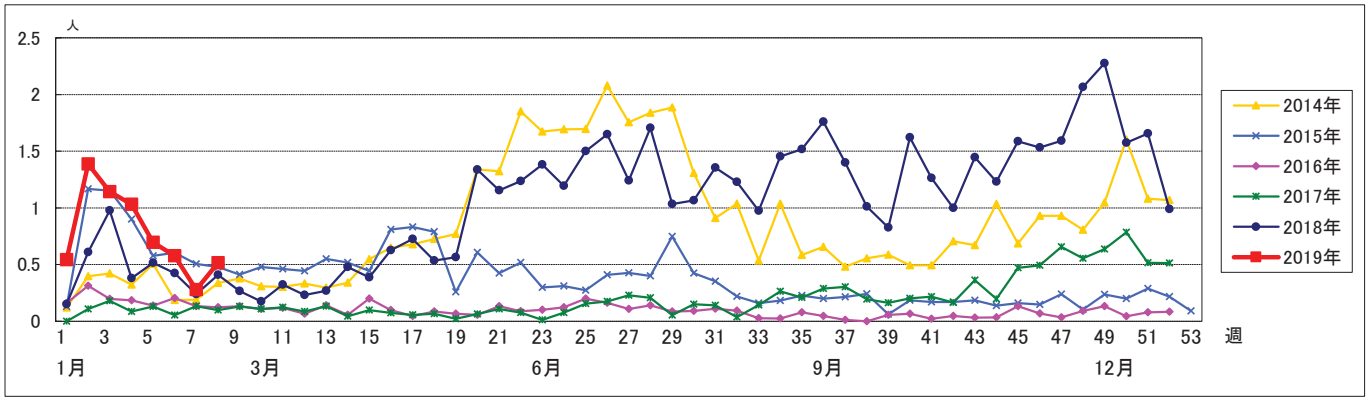
定点把握の対象

平成 31 年　週－月日対照表			
第 5 週	1 月 28 日	～	2 月 3 日
第 6 週	2 月　4 日	～	10 日
第 7 週	11 日		17 日
第 8 週	18 日	～	24 日

1　**インフルエンザ**:2018 年第 48 週に定点あたり 1.07 にて流行開始し、第 51 週に 11.31 にて注意報発令、2019 年第 2 週に 36.08 にて警報発令されました。第 4 週に 66.88 でピークとなった後、第 7 週に 8.91 にて警報解除となりました。第 8 週は 6.44 となっています。



2　**伝染性紅斑**:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。2018 年第 48 週で 2.07 となり警報発令基準を上回りましたが、第 8 週では定点あたり 0.52 となっており、警報解除基準値を下回っています。



3　**性感染症**:1 月

性器クラミジア感染症	男性:20 件	女性:31 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 3 件	女性:14 件
尖圭コンジローマ	男性: 6 件	女性: 3 件	淋菌感染症	男性:13 件	女性: 4 件

4　**基幹定点週報**:

	第 5 週	第 6 週	第 7 週	第 8 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.50**	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	**0.25**	0.00	0.00

5　**基幹定点月報**:1 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/

平成 31 年 3 月 26 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

平成 31 年 3 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- **風しんの報告数が多い状態が続いています。**
  30～40 歳代の男性が中心ですが、50～60 歳代の報告もあります。
  （詳しくは横浜市衛生研究所ホームページ臨時情報の風しん情報をご覧ください。）

全数把握の対象

【3 月期に報告された全数把握疾患】

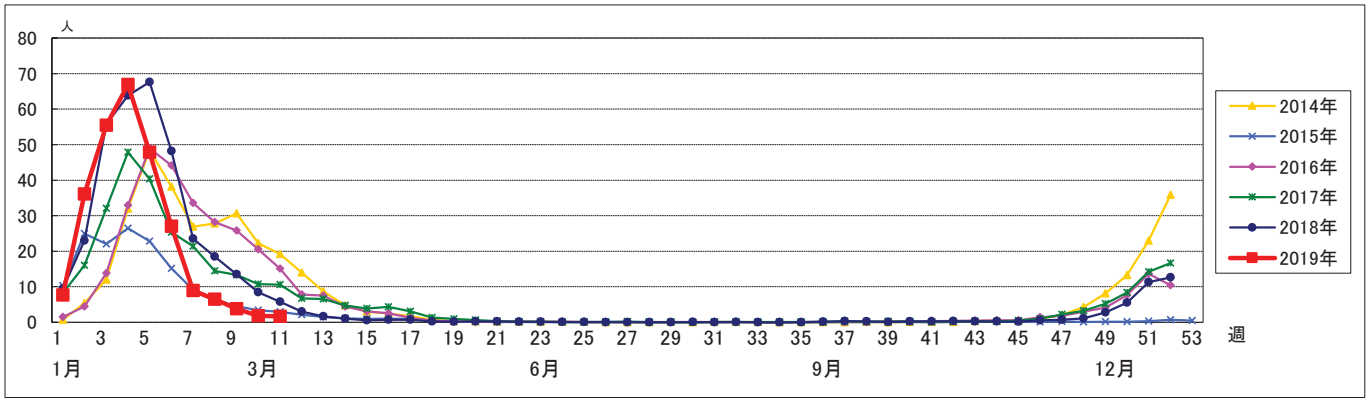
腸管出血性大腸菌感染症	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
E 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
A 型肝炎	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	7 件
デング熱	1 件	梅毒	4 件
レジオネラ症	4 件	百日咳	15 件
アメーバ赤痢	5 件	風しん	14 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件		

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：O157 の無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。
2 **E型肝炎**：感染経路等不明の報告が 1 件ありました。
3 **A型肝炎**：同性間の性的接触によると推定される報告が 2 件ありました。
4 **デング熱**：インドでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
5 **レジオネラ症**：肺炎型の報告が 4 件あり、感染経路等不明でした。
6 **アメーバ赤痢**：腸管アメーバ症の報告が 4 件、腸管および腸管外アメーバ症の報告が 1 件ありました。経口感染と推定される報告が 2 件、感染経路等不明が 3 件でした。
7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：4 件の報告があり、感染経路等不明でした。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**： 60 歳代の A 群の報告が 2 件ありました。
9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：幼児の報告が 1 件（ワクチン接種あり）、90 歳代の報告が 1 件（ワクチン接種不明）ありました。
10 **侵襲性肺炎球菌感染症**：小児の報告が 1 件（ワクチン接種あり）、50 歳代の報告が 1 件（ワクチン接種なし）、60 歳代の報告が 1 件（ワクチン接種不明）、70 歳代の報告が 4 件（ワクチン接種なし 2 件、不明 2 件）ありました。
11 **梅毒**：4 件の報告（早期顕症梅毒Ⅰ期 2 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 2 件）がありました。感染地域は国内 3 件、フィリピンが 1 件でした。感染経路はいずれも異性間性的接触で、性別はいずれも男性でした。
12 **百日咳**：10 歳未満では幼児が 4 件（ワクチン接種あり 3 件、不明 1 件）、小児が 4 件（いずれもワクチン接種あり）の報告があり、10 歳代で 5 件（いずれもワクチン接種あり）、40 歳代で 1 件（ワクチン接種不明）、50 歳代で 1 件（ワクチン接種不明）の報告がありました。
13 **風しん**：検査診断例 14 件が報告されています。20 歳代 4 件（いずれもワクチン接種不明）、30 歳代 2 件（いずれもワクチン接種不明）、40 歳代 5 件（ワクチン接種なし 2 件、不明 3 件）、50 歳代 2 件（いずれもワクチン接種不明）、60 歳代 1 件（ワクチン接種不明）でした。男性 12 件、女性 2 件でした。

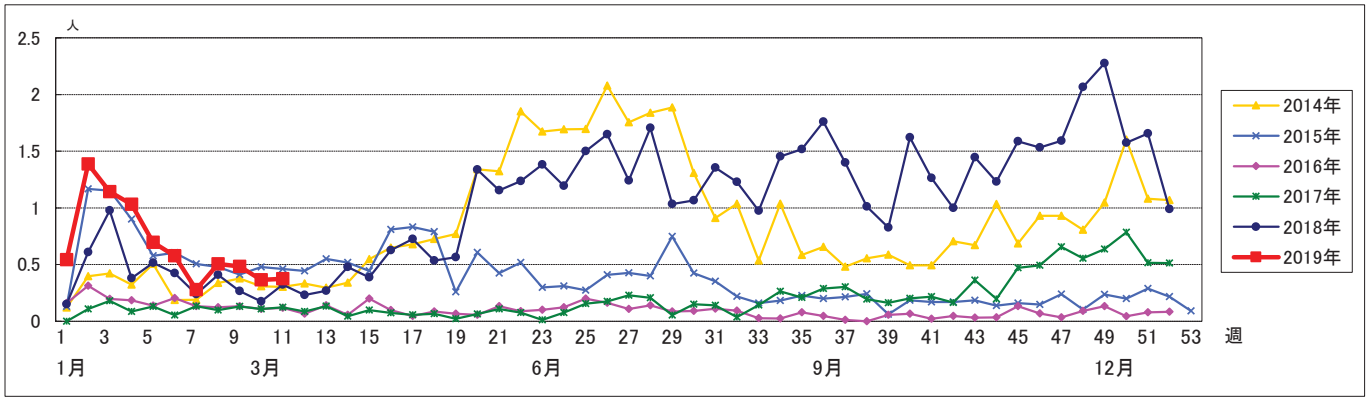
定点把握の対象

平成 31 年　週－月日対照表			
第 9 週	2 月 25 日	～	3 月 3 日
第 10 週	3 月　4 日	～	10 日
第 11 週	11 日	～	17 日

1　**インフルエンザ**:2018 年第 48 週に定点あたり 1.07 にて流行開始し、第 51 週に 11.31 にて注意報発令、2019 年第 2 週に 36.08 にて警報発令されました。第 4 週に 66.88 でピークとなった後、第 7 週に 8.91 にて警報解除となりました。第 11 週は 1.63 となっています。



2　**伝染性紅斑**:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。2018 年第 48 週で 2.07 となり警報発令基準を上回りましたが、第 11 週では定点あたり 0.38 となっており、警報解除基準値を下回っています。



3　**性感染症**:2 月

性器クラミジア感染症	男性:23 件	女性:21 件	性器ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症	男性:　2 件	女性:16 件
尖圭コンジローマ	男性:　8 件	女性:　3 件	淋菌感染症	男性:　8 件	女性:　2 件

4　**基幹定点週報**:

	第 9 週	第 10 週	第 11 週
細菌性髄膜炎	0.00	**0.33**	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	**0.67**	**0.67**	**1.00**

5　**基幹定点月報**:2 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

平成 31 年 4 月 25 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

平成 31 年 4 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザ患者報告数が再び増加しました。**
- **風しんの報告数が多い状態が続いています。**

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	2 件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7 件
腸チフス	2 件	急性脳炎	2 件
パラチフス	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）	1 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	3 件
マラリア	1 件	梅毒	15 件
レジオネラ症	1 件	百日咳	13 件
アメーバ赤痢	6 件	風しん	18 件
ウイルス性肝炎	1 件	麻しん	2 件

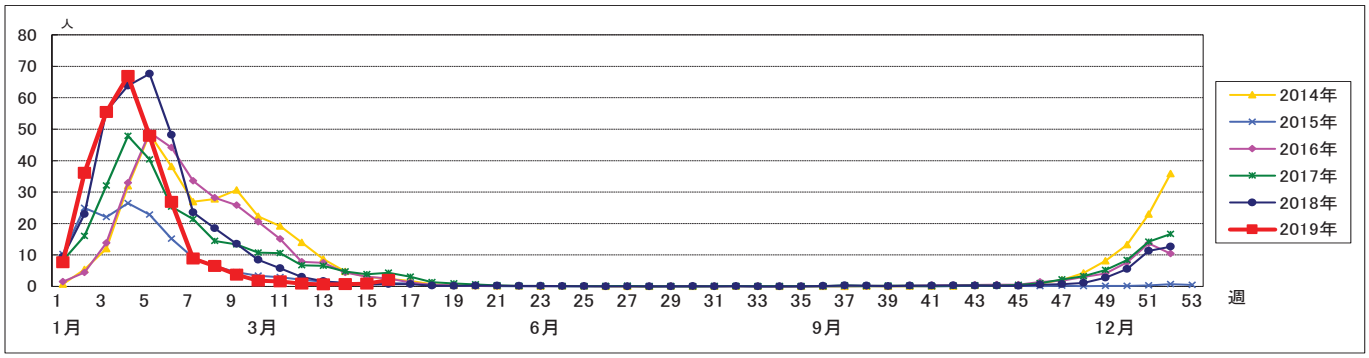
1 **腸管出血性大腸菌感染症：**O157 の報告が 1 件、O 不明の無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。
2 **腸チフス：**ネパールでの感染経路等不明の報告が 1 件、インドでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
3 **パラチフス：**インドでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
4 **E型肝炎：**感染経路等不明の報告が 1 件ありました。
5 **デング熱：**ベトナムでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
6 **マラリア：**コンゴ民主共和国での蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
7 **レジオネラ症：**肺炎型の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
8 **アメーバ赤痢：**腸管アメーバ症の報告が 5 件、腸管および腸管外アメーバ症の報告が 1 件ありました。インドでの経口感染が 1 件、国内またはタイでの異性間性的接触が 1 件、国内の感染経路不明が 2 件、感染地域不明で感染経路不明が 2 件でした。
9 **ウイルス性肝炎：**B 型の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
10 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：**7 件の報告があり、感染経路等不明でした。
11 **急性脳炎：**2 件の報告（幼児 1 件、小児 1 件）があり、病原体は不明です。
12 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症：** A 群の報告が 3 件ありました。
13 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症含む）：** 同性間性的接触による AIDS の報告が 1 件ありました。
14 **侵襲性肺炎球菌感染症：**小児の報告が 1 件（ワクチン接種あり）、60 歳代の報告が 1 件（ワクチン接種なし）、80 歳代の報告が 1 件（ワクチン接種不明）ありました。
15 **梅毒：**15 件の報告（無症状病原体保有者 8 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 4 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 3 件）がありました。感染地域は国内 13 件、不明 2 件でした。感染経路は異性間性的接触が 10 件、同性間性的接触が 2 件、感染経路不明が 3 件で、性別は男性 10 件、女性 5 件でした。
16 **百日咳：**10 歳未満では乳児が 2 件（いずれもワクチン接種なし）、幼児が 1 件（ワクチン接種あり）、小児が 7 件（ワクチン接種あり 4 件、不明 3 件）の報告があり、10 歳代で 3 件（いずれもワクチン接種あり）の報告がありました。
17 **風しん：**検査診断例 17 件、臨床診断例 1 件が報告されています。20 歳代 2 件（ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件）、30 歳代 7 件（ワクチン接種あり 1 件、なし 1 件、不明 5 件）、40 歳代 7 件（ワクチン接種なし 3 件、不明 4 件）、50 歳代 1 件（ワクチン接種なし）、60 歳代 1 件（ワクチン接種不明）でした。男性 16 件、女性 2 件でした。

18 麻しん:検査診断例 2 件が報告されています。感染地域はヨーロッパ 1 件、ベトナム 1 件で、いずれも 20 歳代(いずれもワクチン接種不明)でした。

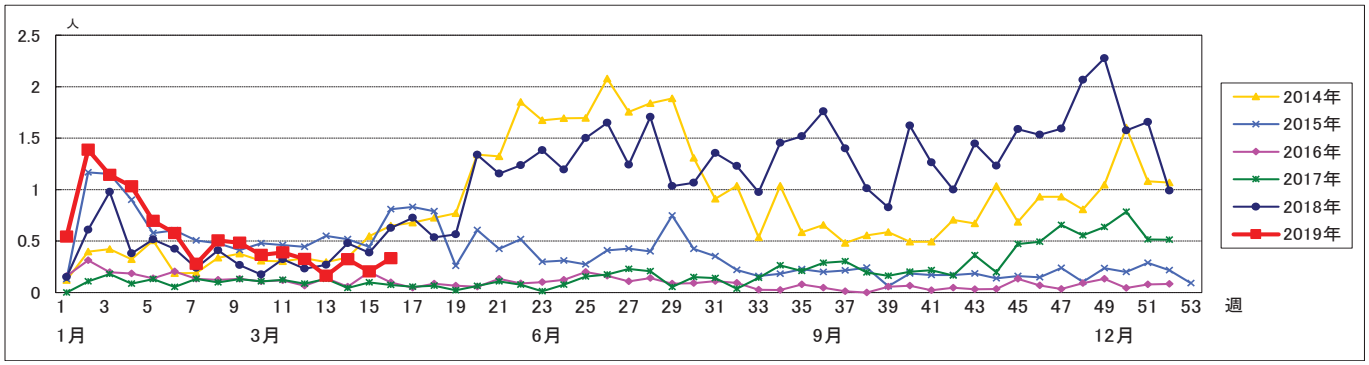
定点把握の対象

平成 31 年　週ー月日対照表			
第 12 週	3 月 18 日	～	24 日
第 13 週	25 日	～	31 日
第 14 週	4 月　1 日	～	7 日
第 15 週	8 日	～	14 日
第 16 週	15 日	～	21 日

1　インフルエンザ:2018 年第 48 週に定点あたり 1.07 にて流行開始し、第 51 週に 11.31 にて注意報発令、2019 年第 2 週に 36.08 にて警報発令されました。第 4 週に 66.88 でピークとなった後、第 7 週に 8.86 にて警報解除となりました。第 12 週以降、1.00 を下回っていましたが、第 16 週にて 2.06 となりました。



2　伝染性紅斑:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。2018 年第 48 週で 2.07 となり警報発令基準を上回りましたが、第 16 週では定点あたり 0.33 となっており、警報解除基準値を下回っています。



3　性感染症:3 月

性器クラミジア感染症	男性:32 件	女性:24 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 4 件	女性:10 件
尖圭コンジローマ	男性: 6 件	女性: 2 件	淋菌感染症	男性: 7 件	女性: 2 件

4　基幹定点週報:

	第 12 週	第 13 週	第 14 週	第 15 週	第 16 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.67	1.00	1.67	0.00	0.00

5　基幹定点月報:3 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 5 月 30 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年 5 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- 麻しんの報告数が増加しています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	6 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
E 型肝炎	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 件
A 型肝炎	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	2 件
デング熱	2 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
マラリア	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	11 件
レジオネラ症	5 件	梅毒	14 件
アメーバ赤痢	4 件	播種性クリプトコックス症	1 件
ウイルス性肝炎	1 件	百日咳	14 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2 件	風しん	13 件
急性脳炎	1 件	麻しん	10 件

1 **腸管出血性大腸菌感染症**:O26 の報告が 3 件(うち 1 件は無症状病原体保有者)、O91 の無症状病原体保有者の報告が 1 件、O157 の報告が 2 件(うち 1 件は無症状病原体保有者)ありました。
2 **E型肝炎**:経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
3 **A 型肝炎**:経口感染と推定される報告が 1 件、感染経路不明の報告が 1 件ありました。
4 **デング熱**:タイおよびフィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ずつありました。
5 **マラリア**:中央アフリカでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
6 **レジオネラ症**:肺炎型の報告が 4 件、ポンティアック熱型の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
7 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症の報告が 4 件ありました。海外での経口感染が 1 件、国内での経口感染が 1 件、異性間性的接触が 1 件、詳細不明の性的接触が 1 件でした。
8 **ウイルス性肝炎**:異性間性的接触による B 型の報告が 1 件あました。
9 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:2 件の報告があり、感染経路等不明でした。
10 **急性脳炎**:ヘルペスウイルスによると推定される新生児の報告が 1 件ありました。
11 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
12 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: A 群の報告が 3 件、B 群の報告が 1 件ありました。
13 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)**: AIDS の報告が 1 件、無症状病原体保有者の報告が 1 件あり、感染経路はいずれも同性間性的接触でした。いずれも男性でした。
14 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:80 歳代の報告が 1 件ありました。
15 **侵襲性肺炎球菌感染症**:幼児の報告が 2 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 1 件)、40 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種なし)、60 歳以上の報告が 8 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 2 件、不明 5 件)、ありました。
16 **梅毒**:14 件の報告(無症状病原体保有者 2 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 6 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 6 件)がありました。感染地域は国内 10 件、シンガポール 1 件、不明 3 件でした。感染経路は異性間性的接触が 9 件、同性間性的接触が 3 件、感染経路不明が 2 件で、性別は男性 10 件、女性 4 件でした。
17 **播種性クリプトコックス症**:免疫不全によると推定される 80 歳代の報告が 1 件ありました。
18 **百日咳**:10 歳未満では乳児が 1 件(ワクチン接種なし)、小児が 8 件(ワクチン接種あり 7 件、不明 1 件)、10 歳代が 4 件(ワクチン接種あり 2 件、不明 2 件)、30 歳代が 1 件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
19 **風しん**:検査診断例 12 件、臨床診断例 1 件が報告されています。10 歳代 1 件(ワクチン接種不明)、20 歳代 2 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件)、30 歳代 4 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 3 件)、40 歳代 1 件(ワクチン接種不明)、50 歳代 3 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 2 件)、60 歳代 1 件(ワクチン接種不明)、70

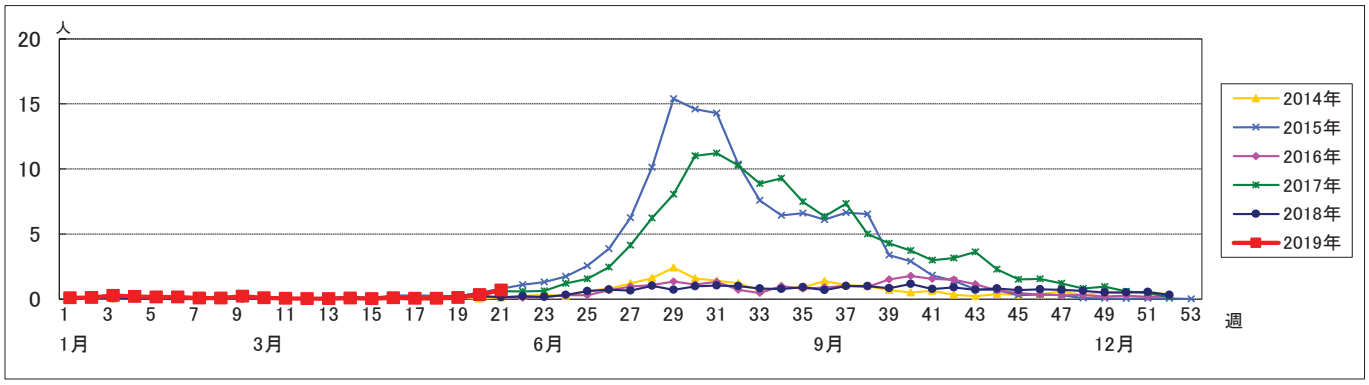
歳代 1 件(ワクチン接種不明)でした。男性 11 件、女性 2 件でした。

20 麻しん:検査診断例 10 件が報告され、いずれも海外渡航歴がなく、国内感染と推定されます。10 歳代 2 件(いずれもワクチン接種あり)、20 歳代 3 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 1 件、不明 1 件)、30 歳代 4 件(ワクチン接種あり 1 件、不明 3 件)、40 歳代 1 件(ワクチン接種不明)でした。

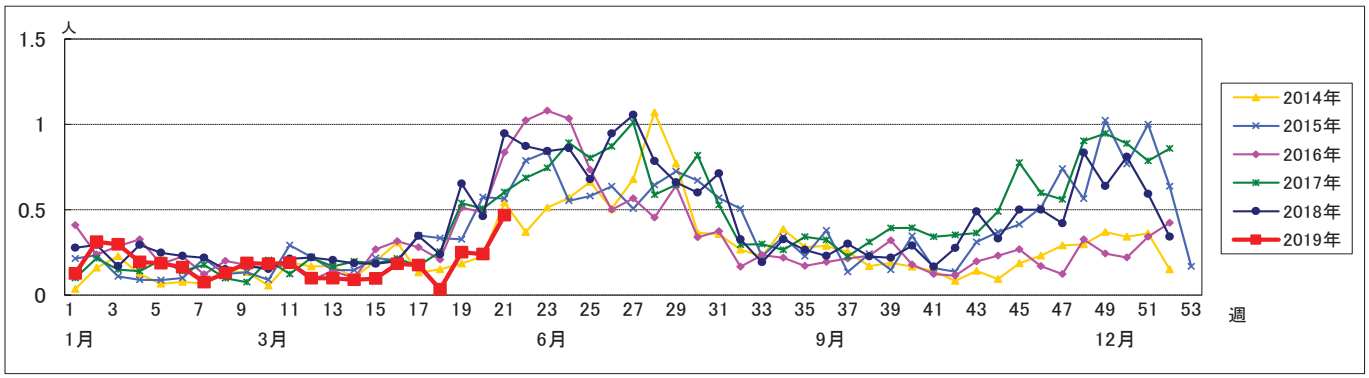
令和元年　週ー月日対照表			
第 17 週	4 月 22 日	～	28 日
第 18 週	29 日	～	5 月 5 日
第 19 週	5 月 6 日	～	12 日
第 20 週	13 日	～	19 日
第 21 週	20 日	～	26 日

定点把握の対象

1　手足口病:2019 年は 0.05 から 0.10 で推移していましたが、第 20 週に 0.35、第 21 週に 0.69 となり、やや増加傾向にあります。近年では 2015 年、2017 年の夏期に増加しました。



2　咽頭結膜熱:2019 年は 0.1 から 0.2 で推移していましたが、第 21 週は 0.47 と増加しています。



3　性感染症:4 月

性器クラミジア感染症	男性:20 件	女性:20 件	性器ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症	男性: 3 件	女性: 8 件
尖圭コンジローマ	男性: 7 件	女性: 1 件	淋菌感染症	男性: 6 件	女性: 4 件

4　基幹定点週報:

	第 17 週	第 18 週	第 19 週	第 20 週	第 21 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	1.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	1.25	0.67

5　基幹定点月報:4 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 6 月 27 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年 6 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- **麻しん・風しんの報告数が多い状態が続いています。**
- **手足口病の報告数が増加しています。**

全数把握の対象

【6 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	2 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	5 件
A 型肝炎	3 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
オウム病	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
デング熱	1 件	水痘(入院例に限る)	1 件
レジオネラ症	10 件	梅毒	12 件
アメーバ赤痢	4 件	百日咳	17 件
ウイルス性肝炎	2 件	風しん	14 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件	麻しん	18 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件		

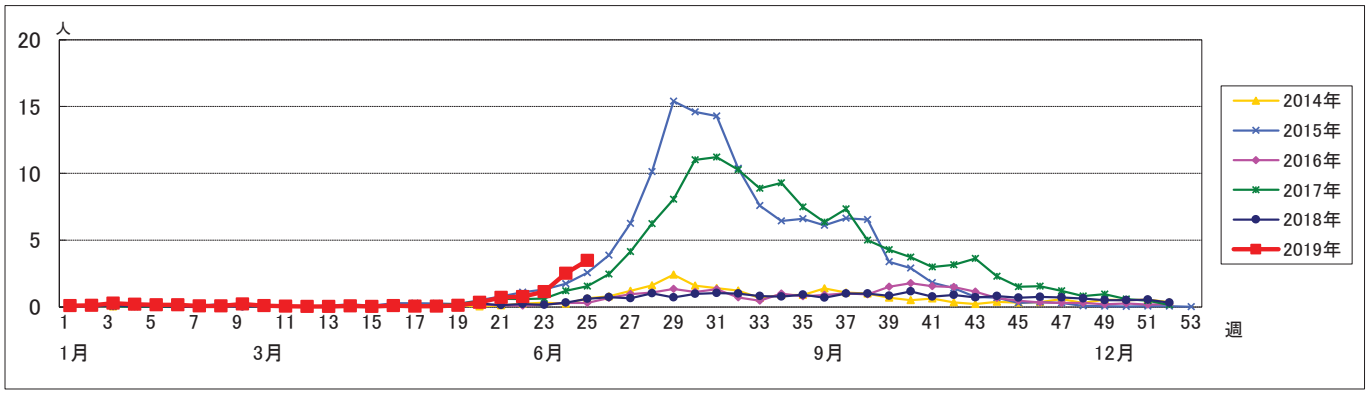
1 **腸管出血性大腸菌感染症**:O157 の報告が 2 件あり、いずれも感染経路不明でした。
2 **E型肝炎**:感染経路不明の報告が 1 件ありました。
3 **A 型肝炎**:経口感染と推定される報告が 2 件、感染経路不明の報告が 1 件ありました。
4 **オウム病**:国内にて動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
5 **デング熱**:モルディブでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
6 **レジオネラ症**:肺炎型の報告が 9 件、無症状病原体保有者の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
7 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症の報告が 4 件ありました。感染経路は国内での同性間性的接触が 1 件、不明が 3 件でした。
8 **ウイルス性肝炎**:B 型の報告が 2 件ありました。感染経路は詳細不明の性的接触が 1 件、不明が 1 件でした。
9 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:6 件の報告があり、感染経路等不明でした。
10 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
11 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: A 群の報告が 1 件ありました。
12 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)**: AIDS の報告が 3 件、無症状病原体保有者の報告が 2 件あり、感染経路はいずれも性的接触(同性間が 3 件、異性間が 1 件、詳細不明が 1 件)で、いずれも男性でした。
13 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70 歳代および 80 歳代の報告が 1 件ずつありました。
14 **侵襲性肺炎球菌感染症**:幼児の報告が 2 件(いずれもワクチン接種あり)、50 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種あり)、60 歳以上の報告が 3 件(いずれもワクチン接種なし)ありました。
15 **水痘(入院例に限る)**:10 歳代の検査診断例の報告が 1 件(ワクチン接種なし)ありました。
16 **梅毒**:12 件の報告(無症状病原体保有者 2 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 7 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 3 件)がありました。感染地域は国内 10 件、マレーシア 1 件、不明 1 件でした。感染経路は異性間性的接触が 8 件、同性間性的接触が 3 件、感染経路不明が 1 件で、性別は男性 10 件、女性 2 件でした。
17 **百日咳**:10 歳未満では乳児 2 件(ワクチン接種なし)、幼児 4 件(ワクチン接種あり 3 件、不明 1 件)、小児 7 件(ワクチン接種あり 5 件、不明 2 件)、10 歳代 3 件(ワクチン接種あり 1 件、不明 2 件)、20 歳代 1 件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
18 **風しん**:検査診断例 14 件が報告されています。10 歳未満 1 件(ワクチン接種あり)、20 歳代 2 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件)、30 歳代 4 件(いずれもワクチン接種不明)、40 歳代 7 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 6 件)でした。男性 11 件、女性 3 件でした。
19 **麻しん**:検査診断例 13 件、修飾麻しん 5 件が報告されました。うち 8 件は麻しん患者との接触があり、健康観

察期間中の発症でした。感染地域はすべて国内です。年齢別では 10 歳未満が 4 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 3 件)、10 歳代 1 件(ワクチン接種あり)、20 歳代 4 件(ワクチン接種あり 3 件、なし 1 件)、30 歳代 8 件(ワクチン接種あり 4 件、なし 2 件、不明 2 件)、50 歳代 1 件(ワクチン接種なし)でした。

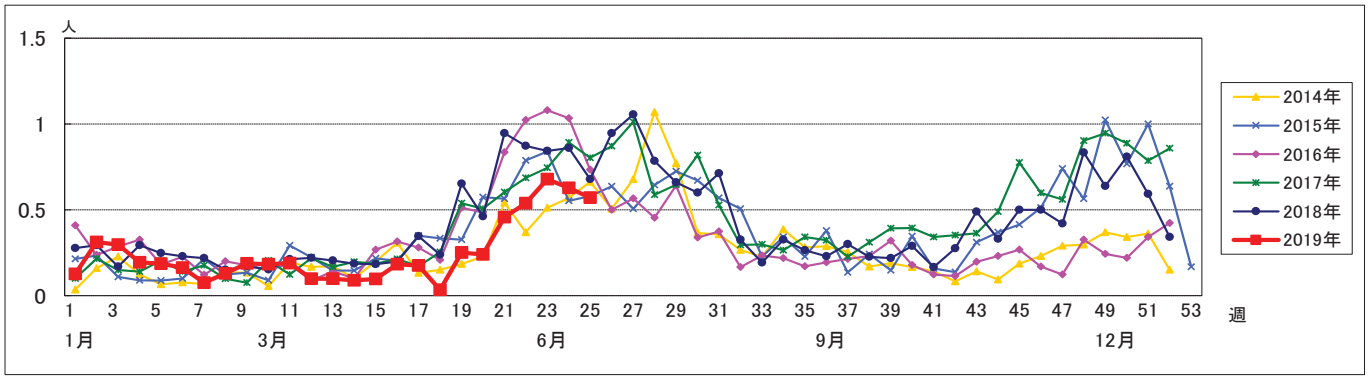
令和元年　週ー月日対照表			
第 22 週	5 月 27 日	～	6 月 2 日
第 23 週	6 月 3 日	～	9 日
第 24 週	10 日	～	16 日
第 25 週	17 日	～	23 日

定点把握の対象

1　**手足口病**:2019 年は 0.05 から 0.10 で推移していましたが、第 20 週に 0.35、第 21 週に 0.71 とやや増加傾向となり、第 24 週に 2.52、第 25 週に 3.47 と増加しています。近年では 2015 年、2017 年の夏期に増加しました。今シーズンは例年の同時期の報告数を上回って推移しています。



2　**咽頭結膜熱**:2019 年は 0.1 から 0.2 で推移していましたが、第 25 週は 0.57 と増加しています。



3　**性感染症**:5 月

性器クラミジア感染症	男性:30 件	女性:23 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7 件	女性: 8 件
尖圭コンジローマ	男性: 8 件	女性: 0 件	淋菌感染症	男性:18 件	女性: 5 件

4　**基幹定点週報**:

	第 22 週	第 23 週	第 24 週	第 25 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.25**	**0.25**	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	**0.25**	**0.33**	0.00

5　**基幹定点月報**:5 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 7 月 25 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年 7 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- 手足口病の流行警報が発令されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症が多く報告されています。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	27 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	4 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
レジオネラ症	3 件	水痘(入院例に限る)	4 件
アメーバ赤痢	2 件	梅毒	6 件
ウイルス性肝炎	1 件	播種性クリプトコックス症	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7 件	百日咳	17 件
急性脳炎	1 件	風しん	8 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2 件		

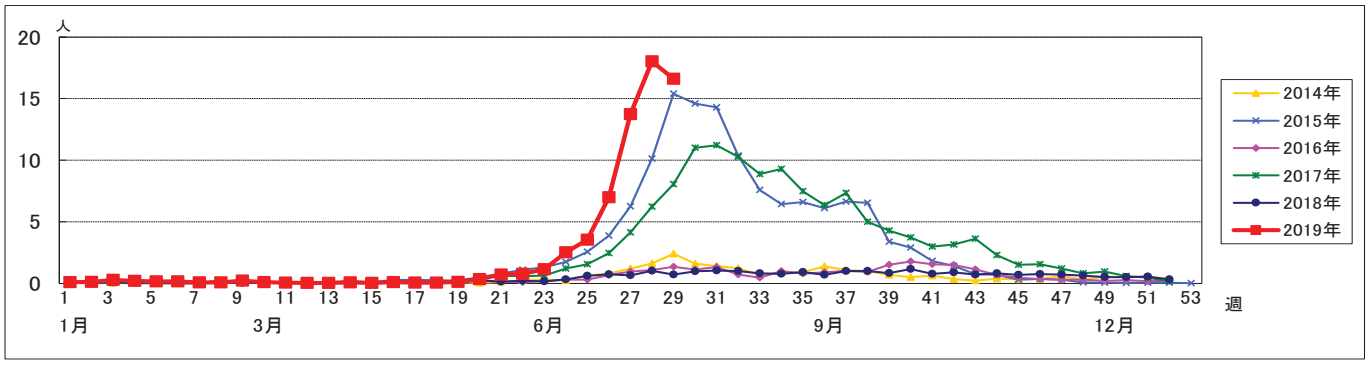
1 **腸管出血性大腸菌感染症:**O157 が 14 件(うち無症状病原体保有者が 2 件)、O121 が 6 件(うち無症状病原体保有者が 1 件)、O26 が 2 件、O111 が 1 件(無症状病原体保有者)、O 不明 4 件(うち無症状病原体保有者が 2 件)ありました。また同一集団内での報告がありました。
2 **E型肝炎:**経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
3 **A 型肝炎:**経口感染または性的接触と推定される報告が 1 件ありました。
4 **デング熱:**マレーシアとカンボディアにて蚊からの感染と推定される報告が 1 件ずつありました。
5 **レジオネラ症:**肺炎型の報告が 3 件あり、感染経路等不明でした。
6 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症の報告が 2 件(国内での経口感染 1 件、不明 1 件)ありました。
7 **ウイルス性肝炎:**同性間の性的接触による B 型の報告が 1 件ありました。
8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:**7 件の報告があり、感染経路等不明でした。
9 **急性脳炎:**病原体不明の 10 歳未満の報告が 1 件ありました。
10 **クロイツフェルト・ヤコブ病:**古典型 CJD の報告が 2 件ありました。
11 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症:** A 群の報告が 2 件、G 群が 1 件、血清群不明が 1 件ありました。
12 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む):** AIDS の報告が 1 件、無症状病原体保有者の報告が 3 件ありました。いずれも男性で、同性間性的接触でした。
13 **侵襲性インフルエンザ菌感染症:**80 歳代の報告が 1 件ありました。
14 **侵襲性肺炎球菌感染症:**10 歳未満の報告が 2 件(いずれもワクチン接種あり)、40 歳代の報告が 2 件(いずれもワクチン接種なし)、50 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種不明)ありました。
15 **水痘(入院例に限る):**10 歳未満の検査診断例の報告が 1 件(ワクチン接種あり)、30 歳代の臨床診断例の報告が 1 件(ワクチン接種不明)、40 歳代の検査診断例の報告が 1 件(ワクチン接種不明)、50 歳代の検査診断例の報告が 1 件(ワクチン接種なし)ありました。
16 **梅毒:**6 件の報告(無症状病原体保有者 1 件、早期顕症梅毒 I 期 4 件、先天梅毒 1 件)がありました。感染地域はいずれも国内で、感染経路は異性間性的接触が 5 件、母子感染が 1 件でした。性別は男性 4 件、女性 2 件でした。
17 **播種性クリプトコックス症:**90 歳代の感染経路不明の報告が 1 件ありました。
18 **百日咳**:10 歳未満が 9 件(ワクチン接種あり 7 件、不明 2 件)、10 歳代が 6 件(ワクチン接種あり 5 件、不明 1 件)、30 歳代が 1 件(ワクチン接種不明)、50 歳代が 1 件(ワクチン接種不明)の報告がありました。

19 風しん:検査診断例 7 件、臨床診断例 1 件の報告がありました。30 歳代 4 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 1 件、不明 2 件)、40 歳代 2 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件)、50 歳代 2 件(いずれもワクチン接種不明)でした。性別は男性 7 件、女性 1 件でした。

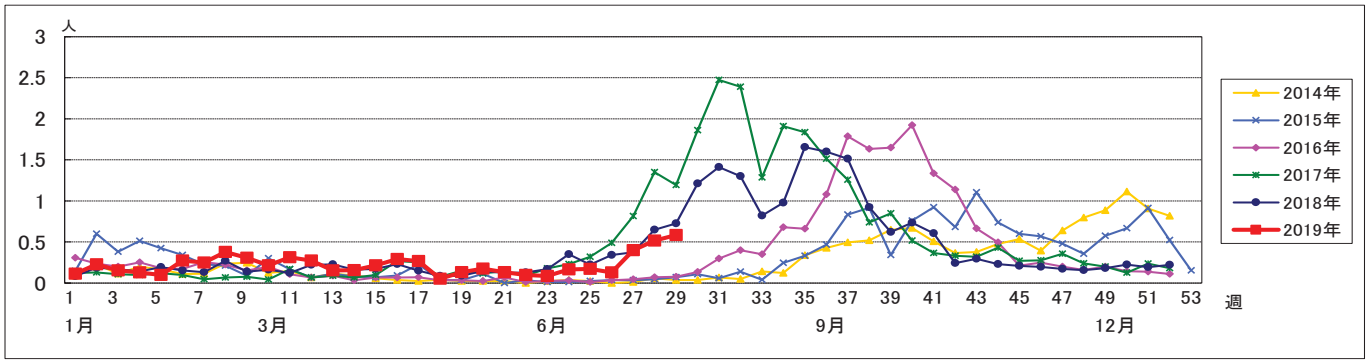
令和元年　週ー月日対照表			
第 26 週	6 月 24 日	～	6 月 30 日
第 27 週	7 月　1 日	～	7 日
第 28 週	8 日	～	14 日
第 29 週	15 日	～	21 日

定点把握の対象

1　手足口病:2019 年は 0.05 から 0.10 で推移していましたが、第 20 週にて定点あたり 0.35 と増加を開始し、第 26 週にて 6.98 で流行警報発令基準値(5.00)を上回り、第 27 週は 13.74、第 28 週は 18.01、第 29 週は 16.60 となっています。今年は過去に流行した 2017 年、2015 年の同時期を上回って推移しています。



2　RS ウイルス感染症:第 27 週に 0.40 と増加し、第 28 週は 0.52、第 29 週は 0.58 となっています。



3　性感染症:6 月

性器クラミジア感染症	男性:31 件	女性:22 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 8 件	女性: 9 件
尖圭コンジローマ	男性: 6 件	女性: 3 件	淋菌感染症	男性:13 件	女性: 3 件

4　基幹定点週報:

	第 26 週	第 27 週	第 28 週	第 29 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.75**	**0.50**	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5　基幹定点月報:6 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 8 月 29 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年 8 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- 腸管出血性大腸菌感染症が多く報告されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- RS ウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 手足口病の流行警報が発令されています。

全数把握の対象

【8 月期に報告された全数把握疾患】

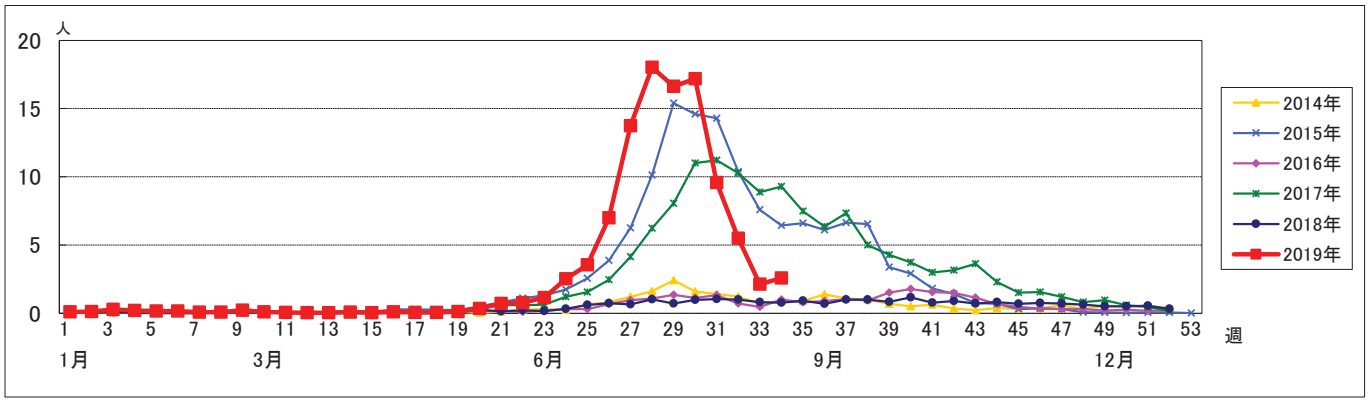
腸管出血性大腸菌感染症	14 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	4 件
腸チフス	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
E 型肝炎	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	3 件
デング熱	1 件	水痘(入院例に限る)	1 件
レジオネラ症	6 件	梅毒	10 件
アメーバ赤痢	4 件	播種性クリプトコックス症	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7 件	百日咳	14 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2 件	風しん	4 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件		

1 **腸管出血性大腸菌感染症**:O157 が 10 件、O103 が 1 件、O111 が 1 件、O121 が 1 件(無症状病原体保有者)、O 不明が 1 件(無症状病原体保有者)ありました。
2 **腸チフス**:シンガポールでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
3 **E型肝炎**:経口感染と推定される報告が 1 件、感染経路不明の報告が 1 件ありました。
4 **デング熱**:フィリピンの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
5 **レジオネラ症**:肺炎型 5 件、無症状病原体保有者 1 件の報告があり、感染経路等不明でした。
6 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症の報告が 3 件、腸管外アメーバ症の報告が 1 件ありました。感染経路は国内での性的接触が 2 件(異性間 1 件、詳細不明 1 件)、経口感染(推定)が 1 件、不明が 1 件でした。
7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:7 件の報告があり、感染経路等不明でした。
8 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:古典型 CJD の報告が 2 件ありました。
9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: G 群の報告が 1 件ありました。
10 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)**:AIDS が 2 件、無症状病原体保有者が 1 件、その他が 1 件で、男性 3 件、女性 1 件でした。感染経路は、国内の性的接触が 2 件(同性間 1 件、異性間 1 件)、母子感染が 1 件、不明が 1 件でした。
11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:80 歳代の報告が 1 件ありました。
12 **水痘(入院例に限る)**:30 歳代の臨床診断例の報告が 1 件(ワクチン接種不明)ありました。
13 **侵襲性肺炎球菌感染症**:80 歳以上の報告が 3 件(ワクチン接種なし 2 件、不明 1 件)ありました。
14 **梅毒**:10 件の報告(無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 2 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 1 件、晩期顕症梅毒 1 件)がありました。感染地域は国内 7 件、不明 3 件で、感染経路は性的接触が 8 件(異性間 5 件、同性間 1 件、詳細不明 2 件)、不明 2 件でした。性別は男性 7 件、女性 3 件でした。
15 **播種性クリプトコックス症**:80 歳代の感染経路不明の報告が 1 件ありました。
16 **百日咳**:10 歳未満が 5 件(ワクチン接種あり 3 件、不明 2 件)、10 歳代が 1 件(ワクチン接種あり)、20 歳代が 2 件(いずれもワクチン接種不明)、30 歳代が 1 件(ワクチン接種不明)、40 歳代が 3 件(いずれもワクチン接種不明)、60 歳代が 1 件(ワクチン接種なし)、70 歳代が 1 件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
17 **風しん**:検査診断例 4 件が報告されています。20 歳代 1 件(ワクチン接種不明、男性)、30 歳代 1 件(ワクチン接種不明、女性)、40 歳代 2 件(いずれもワクチン接種不明、男性)でした。

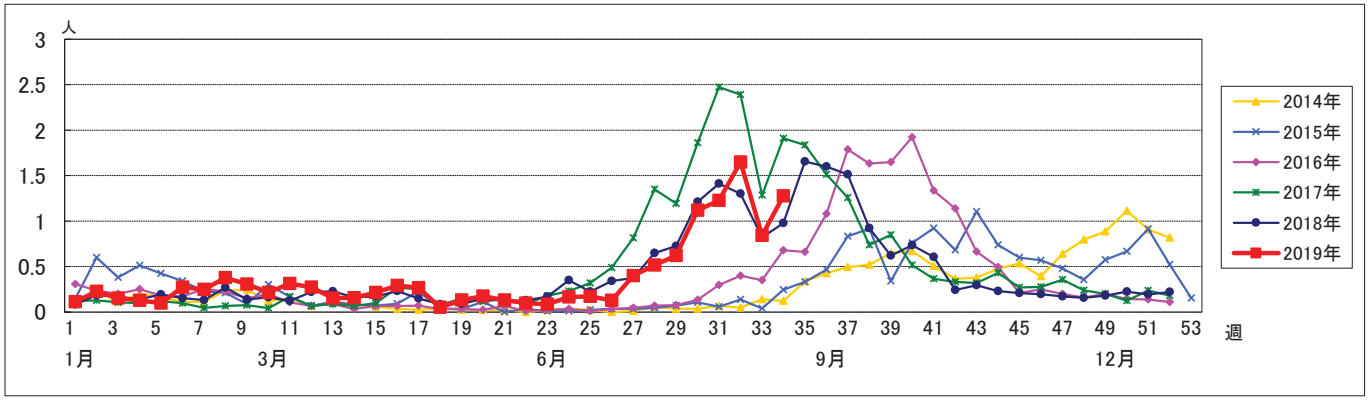
令和元年　週ー月日対照表			
第 30 週	7 月 22 日	～	28 日
第 31 週	29 日	～	8 月　4 日
第 32 週	8 月　5 日	～	11 日
第 33 週	12 日	～	18 日
第 34 週	19 日	～	25 日

定点把握の対象

1　**手足口病**:2019 年は 0.05 から 0.10 で推移していましたが、第 20 週にて定点あたり 0.35 と増加を開始し、第 26 週にて 6.98 で流行警報発令基準値(5.00)を上回りました。第 28 週で 18.01 にて最大値となり、第 34 週は 2.57 となっています。今年は過去に流行した 2017 年、2015 年の同時期を大きく上回って推移していましたが、第 31 週以降は下回って推移しています。流行警報は、依然として継続しています(警報解除基準:2.00)。



2　**RS ウイルス感染症**:第 27 週にて定点あたり 0.40 と増加し、第 32 週で 1.65 にて最大値となり、第 34 週は 1.28 となっています。



3　**性感染症**:7 月

性器クラミジア感染症	男性:29 件	女性:23 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:　6 件	女性:　6 件
尖圭コンジローマ	男性:　9 件	女性:　1 件	淋菌感染症	男性:17 件	女性:　2 件

4　**基幹定点週報**:

	第 30 週	第 31 週	第 32 週	第 33 週	第 34 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.50**	0.00	0.00	**0.33**	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5　**基幹定点月報**:7 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 9 月 26 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年 9 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- 麻しんの報告が 2 件ありました。
- 腸管出血性大腸菌感染症が多く報告されています。
- RS ウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- 手足口病の流行警報が発令されています。

全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

コレラ	1 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	16 件	侵襲性肺炎球菌感染症	2 件
A 型肝炎	3 件	水痘（入院例に限る）	1 件
デング熱	4 件	梅毒	13 件
レジオネラ症	4 件	百日咳	24 件
アメーバ赤痢	7 件	風しん	17 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 件	麻しん	2 件
急性脳炎	1 件		

1 **コレラ**：インドでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
2 **細菌性赤痢**：ミャンマーでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
3 **腸管出血性大腸菌感染症**：O157 が 12 件（うち無症状病原体保有者が 4 件）、O26 が 1 件（無症状病原体保有者）、O121 が 1 件、O 不明が 2 件ありました。
4 **A 型肝炎**：同性間性的接触と推定される報告が 1 件、異性間性的接触と推定される報告が 1 件、感染経路不明の報告が 1 件ありました。
5 **デング熱**：蚊からの感染と推定される報告が 4 件（タイ 2 件、フィリピン 1 件、ミャンマー1 件）ありました。
6 **レジオネラ症**：肺炎型の報告が 4 件ありました。
7 **アメーバ赤痢**：腸管アメーバ症の報告が 7 件ありました。感染経路は国内での異性間性的接触が 1 件、海外での経口感染が 3 件（タイ 2 件、ベトナム 1 件）、不明が 3 件でした。
8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：5 件の報告がありました。
9 **急性脳炎**：10 歳未満の病原体不明の報告が 1 件ありました。
10 **クロイツフェルト・ヤコブ病**：古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
11 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**： B 群が 2 件ありました。
12 **侵襲性肺炎球菌感染症**：10 歳未満の報告が 1 件（ワクチン接種歴あり）、70 歳以上の報告が 1 件（ワクチン接種歴あり）ありました。
13 **水痘（入院例に限る）**：10 歳未満の臨床診断例の報告が 1 件（ワクチン接種歴不明）ありました。
14 **梅毒**：13 件の報告（無症状病原体保有者 4 件、早期顕症梅毒Ⅰ期 5 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 4 件）がありました。感染地域は国内 12 件、不明 1 件で、感染経路は性的接触が 12 件（異性間 10 件、異性間および同性間 1 件、詳細不明 2 件）でした。性別は男性 9 件、女性 4 件でした。直近 6 か月以内の性風俗産業の従事歴または利用歴がある報告は 11 件でした。
15 **百日咳**：10 歳未満が 8 件（ワクチン接種歴あり 6 件、なし 2 件）、10 歳代が 2 件（ワクチン接種歴あり 1 件、不明 1 件）、20 歳代が 3 件（いずれもワクチン接種歴不明）、40 歳代が 5 件（ワクチン接種歴なし 1 件、不明 4 件）、50 歳代が 2 件（いずれもワクチン接種歴不明）、60 歳代が 3 件（いずれもワクチン接種歴不明）、70 歳代が 1 件（ワクチン接種歴不明）の報告がありました。
16 **風しん**：検査診断例 16 件、臨床診断例 1 件が報告されています。10 歳未満 1 件（ワクチン接種歴あり）、20

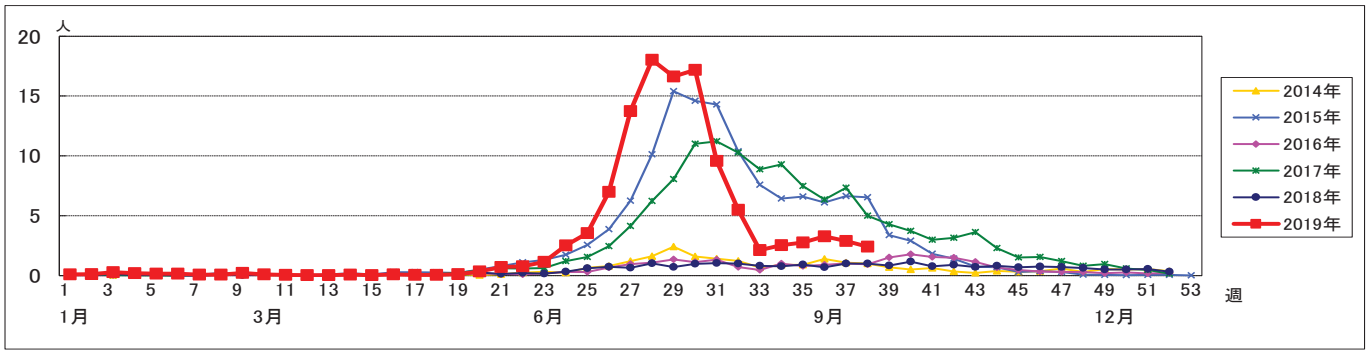
歳代 4 件(ワクチン接種歴あり 1 件、不明 3 件)、30 歳代 4 件(ワクチン接種歴あり 1 件、なし 2 件、不明 1 件)、40 歳代 6 件(ワクチン接種歴なし 3 件、不明 3 件)、50 歳代 2 件(いずれもワクチン接種歴不明)でした。男性 14 件、女性 3 件でした。

17 **麻しん**:検査診断例 2 件が報告されています。いずれも 40 歳代男性で、ワクチン接種歴不明でした。

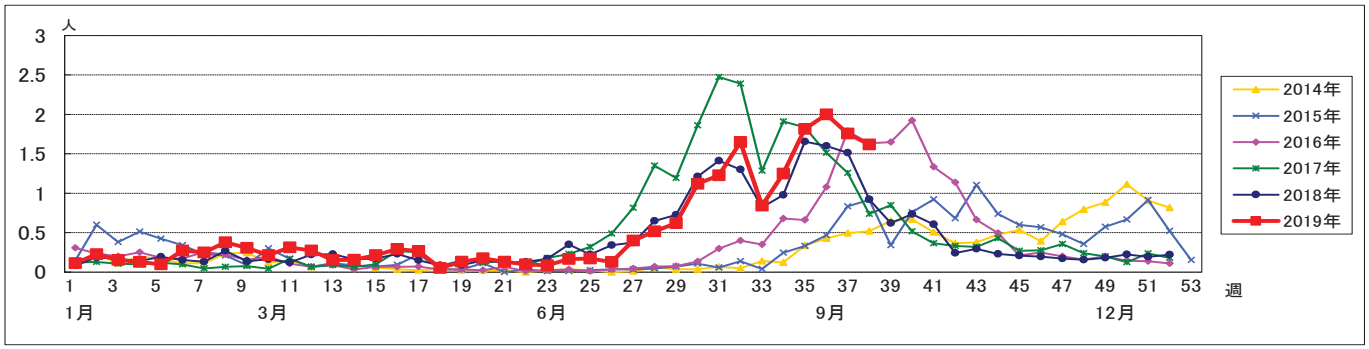
定点把握の対象

令和元年　週ー月日対照表			
第 35 週	8 月 26 日	～	9 月　1 日
第 36 週	9 月　2 日	～	8 日
第 37 週	9 日	～	15 日
第 38 週	16 日	～	22 日

1　**手足口病**:2019 年は 0.05 から 0.10 で推移していましたが、第 20 週にて定点あたり 0.35 と増加を開始し、第 26 週にて 6.98 で流行警報発令基準値(5.00)を上回り、第 28 週で 18.01 にて最大値となり、第 38 週は 2.42 となっています。今年は過去に流行した 2017 年、2015 年の同時期を大きく上回って推移しています。報告は少なくなっていますが、依然として流行警報は続いています(警報解除基準:2.00)。



2　**RS ウイルス感染症**:第 27 週にて定点あたり 0.40 と増加し、第 35 週で 1.81 にて最大値となり、第 38 週は 1.62 となっています。



3　**性感染症**:8 月

性器クラミジア感染症	男性:21 件	女性:26 件	性器ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症	男性:　5 件	女性:11 件
尖圭コンジローマ	男性:　5 件	女性:　3 件	淋菌感染症	男性:10 件	女性:　2 件

4　**基幹定点週報**:

	第 35 週	第 36 週	第 37 週	第 38 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**1.25**	**0.33**	**0.33**	**0.33**
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	**0.33**	0.00

5　**基幹定点月報**:8 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 10 月 31 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年10月期

横浜市感染症発生動向調査報告

≪今月のトピックス≫

- インフルエンザの流行が始まりました。
- 麻しんが5件報告されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症が多く報告されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- 手足口病の流行警報が発令されています。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	15件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
A型肝炎	3件	侵襲性髄膜炎菌感染症	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	5件	水痘（入院例に限る）	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	百日咳	16件
急性脳炎	1件	風しん	10件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	麻しん	5件
後天性免疫不全症候群（HIV感染症含む）	5件	－	－

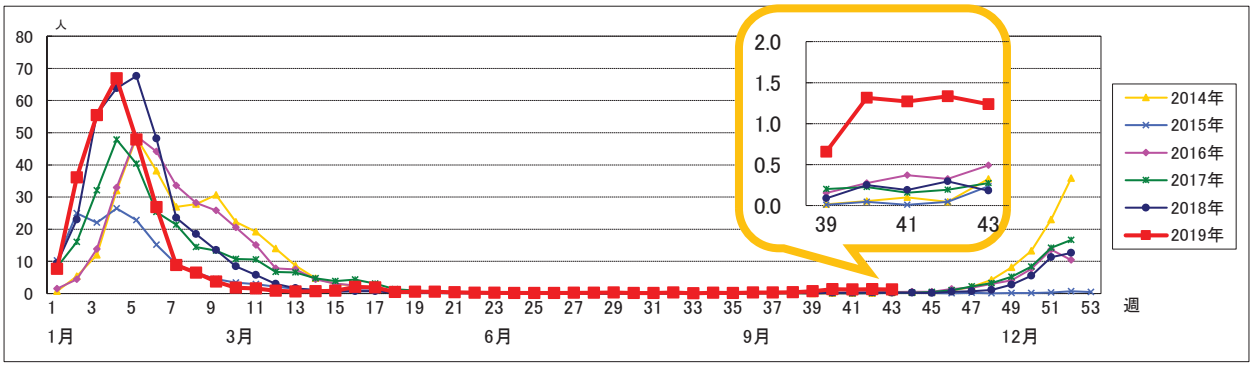
1 **腸管出血性大腸菌感染症**：O157が14件（うち2件は無症状病原体保有者）、O26が1件ありました。
2 **A型肝炎**：経口感染と推定される報告が1件、感染経路不明の報告が2件ありました。
3 **デング熱**：ネパールの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
4 **レジオネラ症**：肺炎型5件の報告があり、感染経路等不明でした。
5 **アメーバ赤痢**：腸管アメーバ症の報告が4件ありました。感染経路は国内での同性間性的接触が1件、不明が3件でした。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：7件の報告があり、感染経路等不明でした。
7 **急性脳炎**：幼児の報告が1件あり、病原体はインフルエンザAでした。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：A群の報告が1件、血清群不明の報告が1件ありました。
9 **後天性免疫不全症候群（HIV感染症含む）**：AIDSが2件、無症状病原体保有者が3件で、いずれも男性でした。感染経路は、いずれも同性間性的接触でした。
10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：70歳以上の報告が3件ありました。
11 **侵襲性髄膜炎菌感染症**：50歳代の報告が1件、80歳代の報告が1件ありました。
12 **侵襲性肺炎球菌感染症**：70歳以上の報告が2件（いずれもワクチン接種不明）ありました。
13 **水痘（入院例に限る）**：乳児および20歳代の臨床診断例の報告が1件ずつありました。
14 **梅毒**：12件の報告（無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件）がありました。感染地域は国内10件、不明2件で、感染経路は性的接触が11件（異性間9件、同性間1件、詳細不明1件）、不明1件でした。性別は男性9件、女性3件でした。
15 **百日咳**：10歳未満が7件（ワクチン接種あり5件、なし1件、不明1件）、10歳代が2件（ワクチン接種あり1件、不明1件）、20歳代が2件（ワクチン接種あり1件、不明1件）、30歳代が1件（ワクチン接種不明）、40歳代が2件（ワクチン接種あり1件、不明1件）、50歳代が1件（ワクチン接種不明）、60歳代が1件（ワクチン接種不明）の報告がありました。
16 **風しん**：検査診断例10件が報告されています。20歳代2件（いずれもワクチン接種不明）、30歳代3件（ワクチン接種なし2件、不明1件）、40歳代3件（ワクチン接種なし1件、不明2件）、50歳代1件（ワクチン接種不明）、60歳代1件（ワクチン接種不明）でした。
17 **麻しん**：検査診断例3件、修飾麻しん2件が報告されています。10歳代1件（ワクチン接種あり）、20歳代

2件（ワクチン接種あり1件、不明1件）、30歳代2件（いずれもワクチン接種あり）でした。

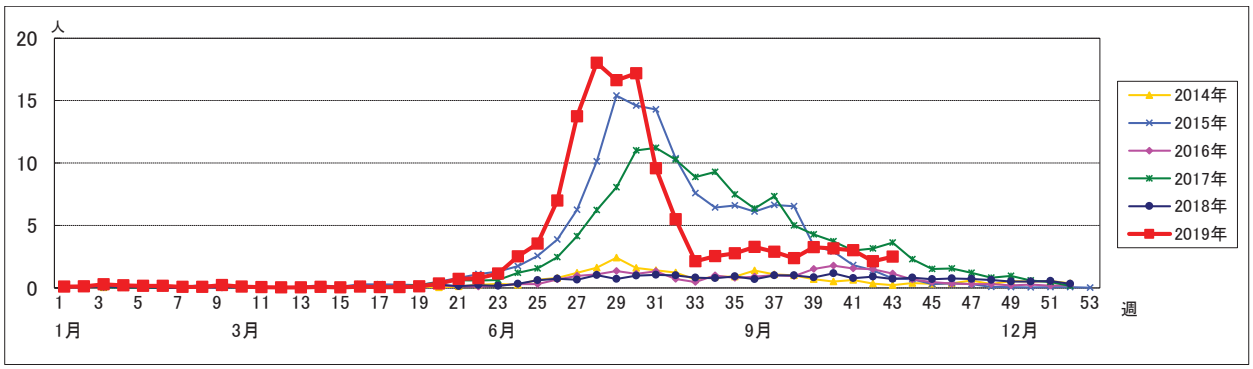
報告週対応表	
第39週	9月23日～9月29日
第40週	9月30日～10月6日
第41週	10月7日～10月13日
第42週	10月14日～10月20日
第43週	10月21日～10月27日

◇ 定点把握の対象

1 **インフルエンザ**：市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安（1.00）を上回りました。第43週は1.24となっています。



2 **手足口病**：2019年は0.05から0.10で推移していましたが、第26週にて6.98で流行警報発令基準値（5.00）を上回り、第28週で18.01にて最大値となり、その後は減少し、第43週は2.49となっています。今年は過去に流行した2017年、2015年の同時期を大きく上回って推移しました。報告は少なくなっていますが、依然として流行警報は続いています（警報解除基準：2.00）。



3 **性感染症（9月）**

性器クラミジア感染症	男性：25件	女性：24件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性：3件	女性：11件
尖圭コンジローマ	男性：6件	女性：3件	淋菌感染症	男性：7件	女性：3件

4 **基幹定点週報**

	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.50**	**0.75**	**1.75**	**0.50**	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 **基幹定点月報（9月）**

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	－	－

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ　URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 11 月 28 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年11月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザが流行しています（A型が多くを占めています）。**
- **麻しんの報告がありました。**
- **風しんの報告が続いています。**

◇ 全数把握の対象

〈11月期に報告された全数把握疾患〉

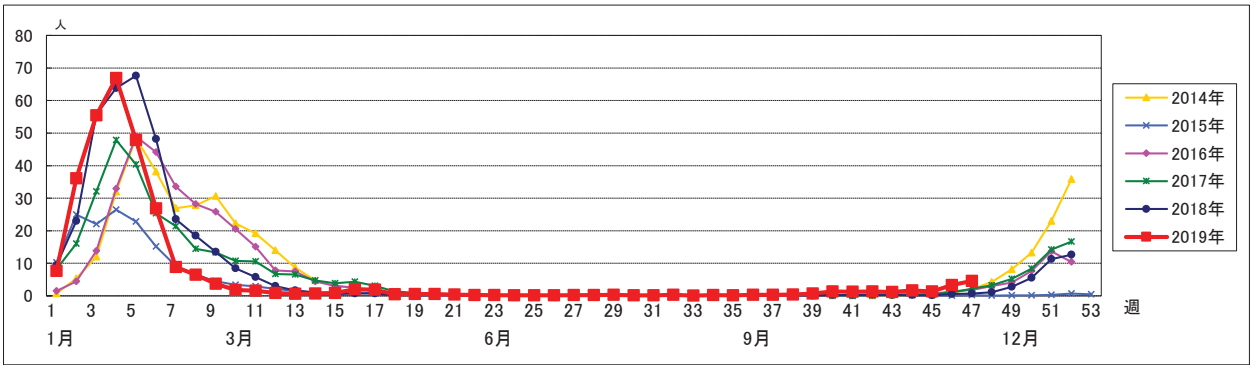
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
E型肝炎	1件	水痘（入院例に限る）	1件
レジオネラ症	7件	梅毒	10件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	百日咳	5件
急性脳炎	2件	風しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	麻しん	1件
後天性免疫不全症候群（HIV感染症含む）	2件	－	－

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：O157が5件（うち1件は無症状病原体保有者）、O121が1件（無症状病原体保有者）ありました。
2 **E型肝炎**：経口感染と推定される報告が1件ありました。
3 **レジオネラ症**：肺炎型6件、ポンティアック熱型1件の報告があり、感染経路等不明でした。
4 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：8件の報告があり、感染経路等不明でした。
5 **急性脳炎**：幼児の報告が1件（病原体はインフルエンザA）、30歳代の報告が1件（病原体不明）ありました。
6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：A群の報告が2件、G群の報告が1件ありました。
7 **後天性免疫不全症候群（HIV感染症含む）**：無症状病原体保有者が1件、その他が1件で、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が1件、同性間または異性間が1件でした。
8 **侵襲性肺炎球菌感染症**：30歳代の報告が1件、50歳代の報告が1件、60歳代の報告が1件（ワクチン接種なし）、70歳代の報告が1件（ワクチン接種あり）、80歳代の報告が1件（ワクチン接種なし）ありました。
9 **水痘（入院例に限る）**：30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
10 **梅毒**：10件の報告（無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件）がありました。感染地域は国内8件、台湾1件、不明1件で、感染経路は性的接触が9件（異性間7件、同性間1件、同性間または異性間1件）、不明1件でした。性別は男性7件、女性3件でした。
11 **百日咳**：10歳未満が1件（ワクチン接種あり）、30歳代が1件（ワクチン接種なし）、40歳代が1件（ワクチン接種不明）、50歳代が1件（ワクチン接種不明）、60歳代が1件（ワクチン接種不明）の報告がありました。
12 **風しん**：検査診断例1件（60歳代、ワクチン接種不明）が報告されています。
13 **麻しん**：東南アジアでの感染と推定される検査診断例1件（30歳代、ワクチン接種1回あり）が報告されています。

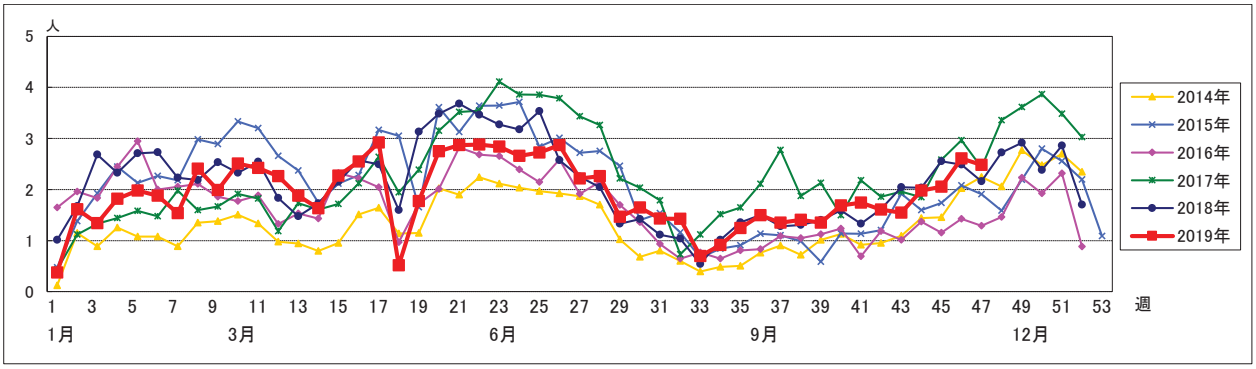
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第44週	10月28日～11月 3日
第45週	11月 4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

1 **インフルエンザ**：市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安（1.00）を上回りました。その後は横ばいで推移していましたが、第46週で3.26、第47週で4.55と増加しています。



2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：夏に報告数が減少していましたが、例年と同様に冬季に入って報告数が増加しています。第46週で2.61、第47週で2.48となっています。



3 **性感染症（10月）**

性器クラミジア感染症	男性：25件	女性：21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性： 9件	女性：12件
尖圭コンジローマ	男性： 2件	女性： 2件	淋菌感染症	男性：11件	女性： 2件

4 **基幹定点週報**

	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.75**	**0.75**	**0.50**	**0.33**
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.00	0.00	**0.25**	0.00

5 **基幹定点月報（10月）**

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	－	－

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

令和元年 12 月 26 日
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463

令和元年12月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

≪今月のトピックス≫

- **インフルエンザの流行注意報が発令されました（A型が多くを占めています）。**
- **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。**

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

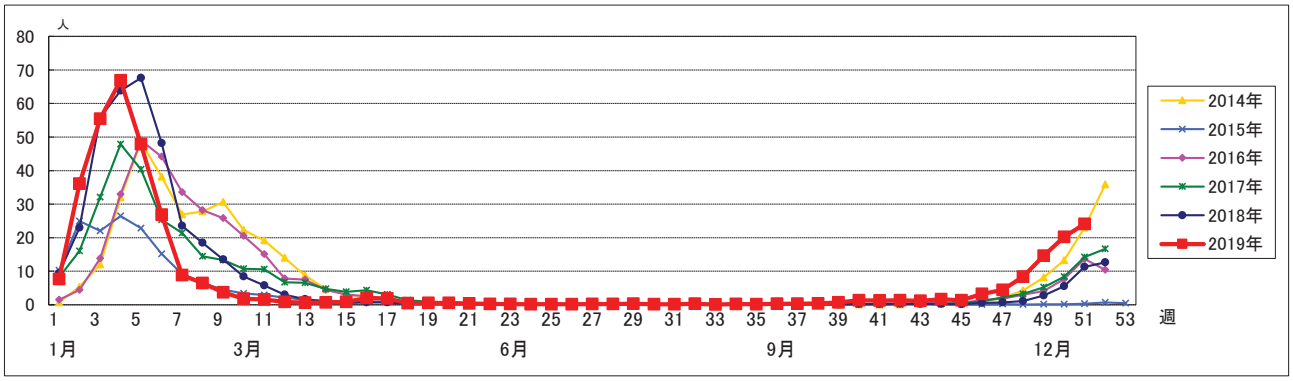
腸管出血性大腸菌感染症	9件	後天性免疫不全症候群（HIV感染症含む）	2件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
レジオネラ症	6件	水痘（入院例に限る）	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	5件
ウイルス性肝炎	2件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	5件
急性脳炎	5件	風しん	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	－	－

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：O157が4件（うち1件は無症状病原体保有者）、O111が2件、O115が1件（無症状病原体保有者）、O121が1件、O不明が1件（無症状病原体保有者）報告されました。
2 **E型肝炎**：経口感染と推定される報告が1件ありました。
3 **A型肝炎**：同性間性的接触による感染と推定される報告が1件ありました。
4 **レジオネラ症**：肺炎型6件の報告があり、感染経路等不明でした。
5 **アメーバ赤痢**：2件の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
6 **ウイルス性肝炎**：EBVの報告が2件あり、いずれも感染経路等不明でした。
7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：3件の報告があり、感染経路等不明でした。
8 **急性脳炎**：10歳未満の報告が2件（病原体はいずれもインフルエンザ）、10歳代の報告が3件（病原体はインフルエンザ2件、不明1件）ありました。
9 **クロイツフェルト・ヤコブ病**：古典型CJDの報告が1件ありました。
10 **後天性免疫不全症候群（HIV感染症含む）**：無症状病原体保有者が2件で、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が1件、詳細不明が1件でした。
11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**：80歳代の報告が1件ありました。
12 **侵襲性肺炎球菌感染症**：10歳代の報告が2件（いずれもワクチン接種なし）、60歳代の報告が2件（いずれもワクチン接種なし）、70歳代の報告が2件（ワクチン接種あり1件、不明1件）、80歳以上の報告が3件（ワクチン接種あり1件、不明2件）ありました。
13 **水痘（入院例に限る）**：20歳代の臨床診断例の報告が1件ありました。
14 **梅毒**：5件の報告（無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件）がありました。感染地域は国内3件、不明2件で、感染経路は異性間性的接触が4件、不明1件でした。性別は男性3件、女性2件でした。
15 **播種性クリプトコックス症**：免疫不全によるものと推定される70歳代の報告が1件ありました。
16 **百日咳**：10歳代が2件（ワクチン接種あり）、20歳代が1件（ワクチン接種不明）、80歳代が2件（ワクチン接種不明）の報告がありました。
17 **風しん**：検査診断例1件（20歳代男性、ワクチン接種不明）が報告されています。

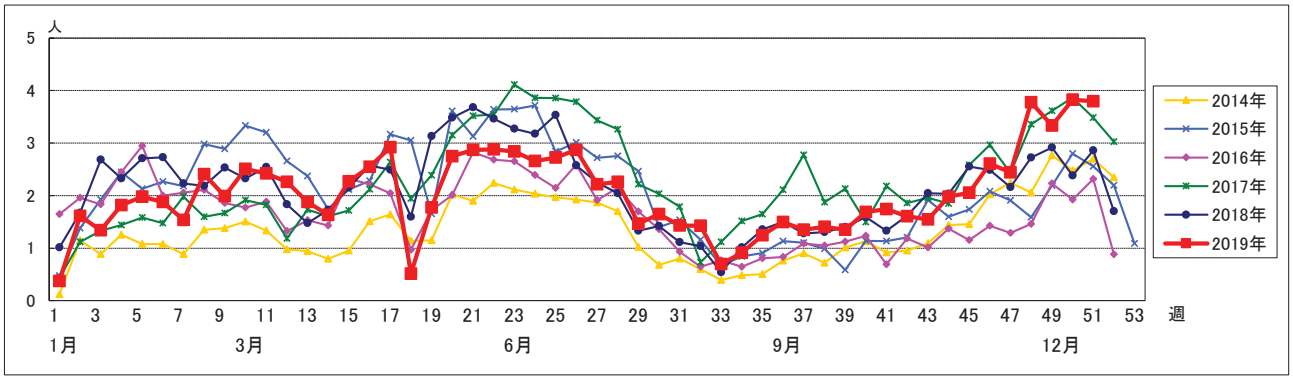
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第48週	11月25日～12月 1日
第49週	12月 2日～12月 8日
第50週	12月 9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

1 **インフルエンザ**：市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回りました。第49週に14.59となり、流行注意報が発令され、第50週で20.17、第51週で24.06となっています。



2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：夏に報告数が減少していましたが、冬季に入って報告数が増加しています。第50週で3.83、第51週で3.80となっています。



3 **性感染症(11月)**

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 4件	淋菌感染症	男性: 8件	女性: 2件

4 **基幹定点週報**

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	**0.33**	0.00
マイコプラズマ肺炎	**0.33**	**0.67**	**0.33**	**0.67**
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 **基幹定点月報(11月)**

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	－	－

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/

感染症に気をつけよう！

2019年【1月号】

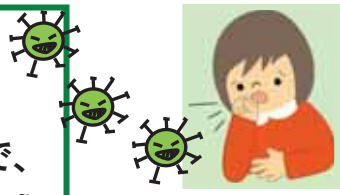
横浜市内の感染症 流行状況

感染症 *	流行状況		説明【解説付き既刊号 等】
インフルエンザ **	注意報	増加	11月下旬に流行が始まり、12月下旬には注意報が発令されています。【'18.12号】
伝染性紅斑 **（リンゴ病）	流行	横ばい	例年に比べて多い状態が1年以上続き、11月下旬には警報レベルになりました。【'18.7号】
風しん **	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'18.10号】【風しん対策事業】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

- 予防の基本は、正しい手洗いの習慣です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、マスクを着けて、咳エチケットを守り早目に受診してください。

- 咳やくしゃみをすると、口や鼻から細かいしぶき（飛沫）が飛び散ります。
- 患者の飛沫にはインフルエンザウイルスが含まれているので、マスクをしないで咳やくしゃみをすると、飛沫が飛んで周囲に感染を広げてしまいます。
- マスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけましょう。



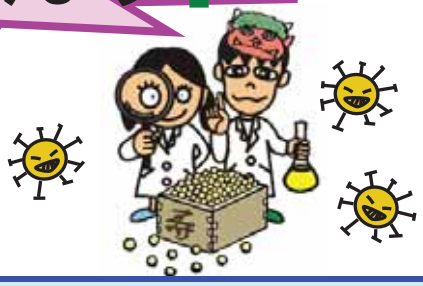
- 発症後3～7日間は、鼻やのどからウイルスを排出すると言われています。
- 学校等については、【 症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間（幼児は3日間）は休むこと 】とされています。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　*：国立感染症研究所 **：厚生労働省

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【2月号】

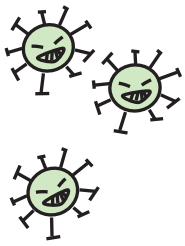


横浜市内の感染症 流行状況

感染症 *	流行状況		説明【解説付き既刊号 等】
インフルエンザ **	警報	増加	例年と比べて大幅に増加していた昨シーズンの同時期の報告数を上回っています。【'19.1 号】
風しん **	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'18.10 号】【風しん対策事業】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

- 予防の基本**は、正しい手洗い**の習慣です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、マスクを着けるなど、咳エチケット**を守り早目に受診しましょう。



- 小学校を中心に学級閉鎖が急増し、保育園、病院や高齢者施設等での集団発生も増えています。
- 小児と高齢者の入院患者が増加し、重症肺炎や脳炎が疑われる例も報告されています。

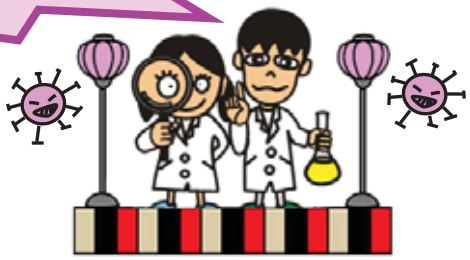
- こんな症状は重症化のサインです。すぐに受診してください。
  - ✔ 呼びかけに答えない！
  - ✔ 呼吸が早く息苦しい！
  - ✔ 胸の痛みが続く！
  - ✔ 症状が長引き悪化！

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　*:国立感染症研究所 **:厚生労働省

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

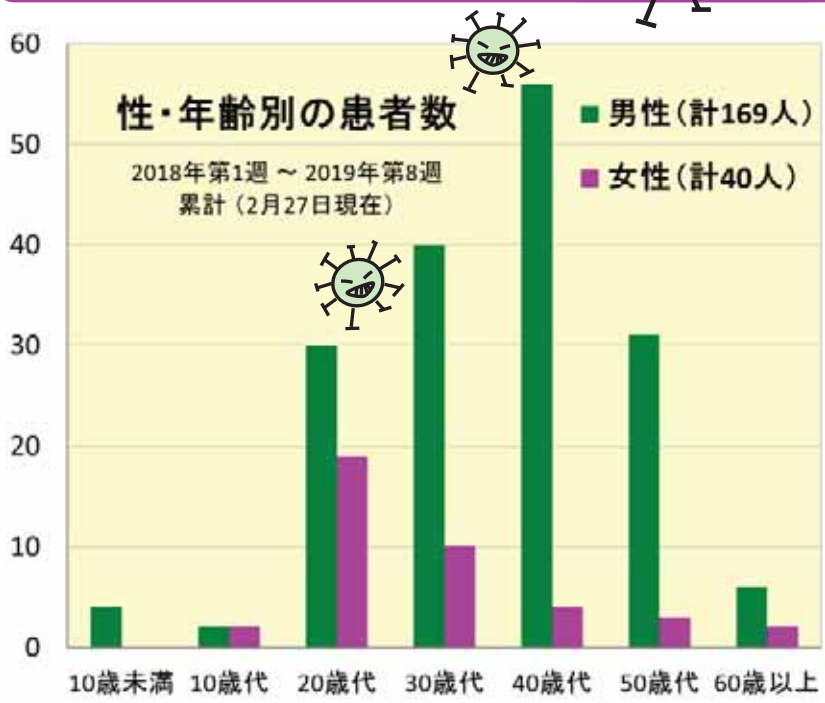
2019年【3月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症 *	流行状況		説明【解説付き既刊号 等】
インフルエンザ **	流行	減少	1月下旬にピークとなった後、2月中旬に警報が解除されましたが、まだ流行中です。【'19.2 号】
風しん **	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'18.10 号】【風しん対策事業】

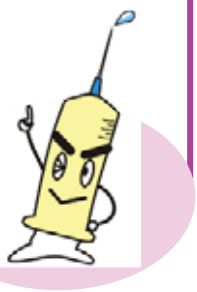
今、気をつけたい感染症 風しん



● ほとんどの患者さんが予防接種を受けていないか、接種歴が不明です。

● 妊婦が感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染して、先天性風しん症候群* になる可能性があります。

● あなた自身と、周りの人を守るためにも、予防接種を受けましょう。（妊娠中は受けられません。）



● 万一、風しんを疑う症状（発熱・発疹・リンパ節の腫れなど）が出たら、必ず事前に医療機関へ電話して、指示に従って受診しましょう。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
*：国立感染症研究所 **：厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

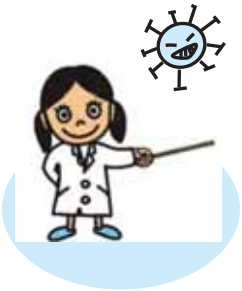
感染症に気をつけよう！

2019年【4月号】

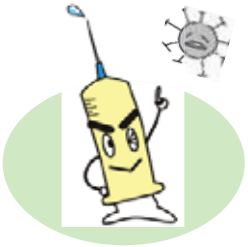
横浜市内の感染症 流行状況

感染症 *	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
風しん **	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'19.3 号】【横浜市保健所】
インフルエンザ **	散発	減少	患者報告数は3月下旬に、流行開始と判断される前の状態にまで減少しました。【'19.2 号】

今、気をつけたい感染症 風しん



- 風しんの症状は、軽いものから重いものまで幅広いです。特に大人が発症すると、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛が出るなど、子どもより重症化することがあります。
- ▶ また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院治療が必要になる例もみられるため、十分に注意しなければなりません。



- 市内でも全国と同様に、ほとんどの患者さんが予防接種を受けていないか、接種歴が不明です。
- ▶ 風しんにかかったことや、ワクチンを2回受けたことがはっきり分からない場合は、抗体検査や予防接種についてご検討ください。

- 妊婦が風しんに感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染して、先天性風しん症候群* になる可能性があります。
- ▶ あなた自身と、周りの人を守るためにも、予防接種を受けましょう。（妊娠中は受けられません。）

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　*:国立感染症研究所 **:厚生労働省

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【5月号】

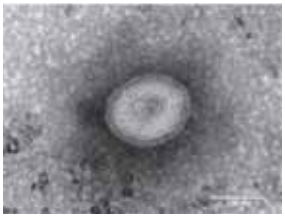
横浜市内の感染症 流行状況

感染症 *	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ **	流行	増加	患者数は一度、落ち着いていましたが、4月以降再び増加してきました。【'19.2 号】
風しん **	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'19.4 号】【横浜市保健所】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

■ 市内の学級閉鎖は、3 月下旬以降、報告されていませんでした。

■ しかし、4 月 15 日からの 1 週間に小学校 3 施設、中学校 1 施設で報告されている状況です。



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6 万倍)
撮影:横浜市衛生研究所

■ インフルエンザは普通の風邪と違います。38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感(けんたいかん)などの症状が、急に出ることが特徴です。

■ もし症状が出てしまったら、咳エチケット**を守り早目に受診してください。

■ 熱が下がっても人にうつす可能性があります。一般的には、発症後 3～7 日間は鼻やのどからウイルスが排出されると言われています。

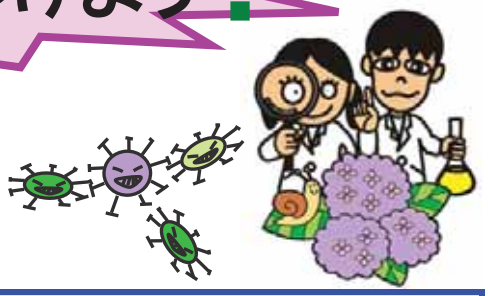
■ 他の人にうつさないためにも、無理をせず、学校***や仕事は休みましょう。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　*:国立感染症研究所 **:厚生労働省 ***:日本学校保健会

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【6月号】



横浜市内の感染症 流行状況

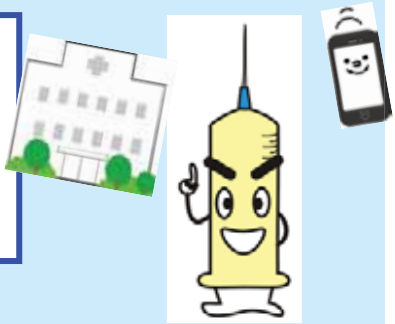
感染症 *	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
麻しん **	多発	増加	麻しん患者との接触が明らかでないケースの報告が、続いています。【'18.5 号】
風しん **	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が、まだ継続中です。【'19.4 号】【予防接種】

今、気をつけたい感染症 麻しん（はしか）

- これまでは海外で感染した例が報告されていましたが、4 月以降、海外渡航歴のない感染経路不明の患者が増加しています。
- 知らないうちに身近な所へ麻しんウイルスが持ち込まれている可能性があります！！

- 麻しんの感染力は非常に強く、免疫がない人が感染すると、ほぼ 100%発症してしまいます。
- 熱や咳、鼻水など、風邪のような症状が出て、数日すると 38℃以上の高熱と、全身の赤い発疹が現れます。
- 肺炎や脳炎などの合併症を起こした場合、時に命に関わることもあります！！

- 予防には 2 回の予防接種が必要です。
- 麻しん風しん混合（MR）ワクチンを確実に受けましょう。
- 麻しんが疑われる場合は、事前に医療機関へ連絡してから指示に従って早めに受診してください！！

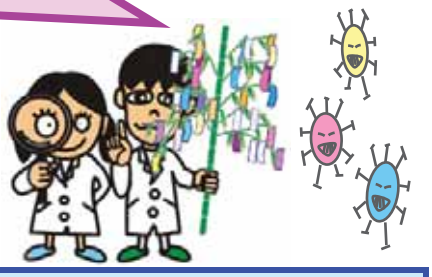


参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　*:国立感染症研究所 **:厚生労働省

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【7月号】



横浜市内の感染症 流行状況

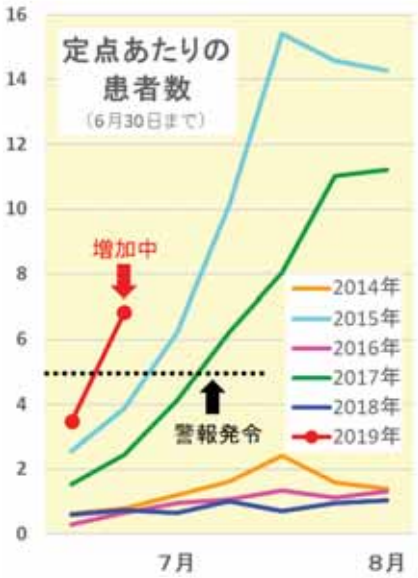
感染症 *	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
麻しん **	散発	やや減少	4月以降、海外渡航歴のない、感染経路不明の例が報告されています。【'19.6 号】
風しん **	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、まだ、報告数が多い状態が継続中です。【'19.4 号】【予防接種】
手足口病 **	警報	急増	夏に流行します。今年は、例年の同時期の報告数を大きく上回って推移しています。【'17.7 号】

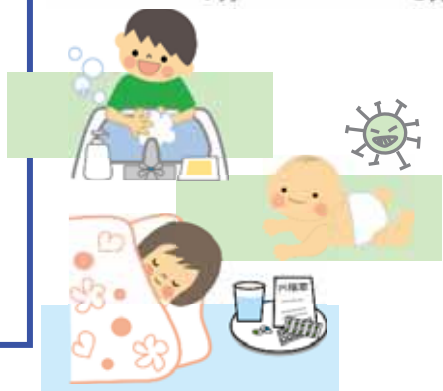
今、気をつけたい感染症 手足口病

●ウイルスが原因で、5歳以下に多く、口の中や手足などに水ぶくれ様の発疹が出ます。●治った後に、爪がはがれる場合もあります。●咳のしぶきや便等から感染し、保育園での集団感染もよく発生します。

●予防には手洗い**が大切です。●特に、おむつを替える時には、きちんと手を洗いましょう。●治ってからも長い間、便の中にウイルスが排泄されるので、注意が必要です。

●ほとんどは、数日間のうちに治りますが、まれに髄膜炎など重い合併症もみられます。●経過観察をしっかり行い・・・
✔高熱が出る ✔発熱が2日以上続く ✔嘔吐する
✔頭を痛がる ✔視線が合わない ✔呼びかけに答えない
✔呼吸が速く息苦しそう ✔水分が取れずおしっこが出ない
✔ぐったりとしている
・・・などの症状があれば、すぐに受診してください。





参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ *:国立感染症研究所 **:厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【8月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
手足口病 *	警報	横ばい	6月下旬から警報発令中です。例年の同時期の報告数を上回って推移しています。【'19.7 号】
風しん *	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'19.4 号】【予防接種】
腸管出血性大腸菌感染症 *	多発	増加	7月から報告が増えています。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'17.9 号】【ちらし】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

- 病原性大腸菌（O157 など）に汚染された物を口にすることが原因です。
- 食品以外に、患者の便で汚れた物品からも感染します。
- 他の食中毒菌と同様に、加熱や消毒薬により死滅するので、

予防のためには *食中毒予防の三原則* *を守ることが大事です。

- *菌をつけない！* *手をよく洗いましょう* *！

トイレ後、調理前、食事前、下痢をしている子どもや高齢者の排泄物の世話後などに。

- *増やさない！* 買い物から帰ったら、生鮮食品は *すぐに冷蔵庫へ入れましょう！*
- *やっつける！* 食材を *しっかり加熱しましょう！*

- 症状は、全くないものから軽い腹痛や下痢のみで終わるもの、さらには溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳炎といった重い合併症を起こし、時には命に関わるものまで様々です。
- 下痢止め薬の使用など、自分で判断しないで早めに受診してください。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【9月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性大腸菌感染症 *	多発	横ばい	報告が多いです。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.8 号】【ちらし】
風しん *	多発	横ばい	今年報告された患者の集計では、40代の男性を中心に多い状態です。【'19.4 号】【予防接種】
RS ウイルス感染症 *	やや流行	横ばい	例年、冬に流行していましたが、2017年以降は夏から秋にかけて増加しています。
手足口病 *	警報	減少	過去の流行を上回って推移していましたが、8月以降は減少しています。【'19.7 号】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

感染経路や症状は？

● 病原性大腸菌（O157 など）に汚染された物を食べたり、患者の便で汚れた物品から菌が口に入って感染します。

● 症状は、腹痛・下痢・血便・おう吐などです。重い合併症を起こし、時には命に関わる場合もあります。 ● 疑われる症状が出たら、下痢止め薬の使用などを自分で判断しないで、早めに受診してください。

予防方法は？

● 手をしっかり洗いましょう*。

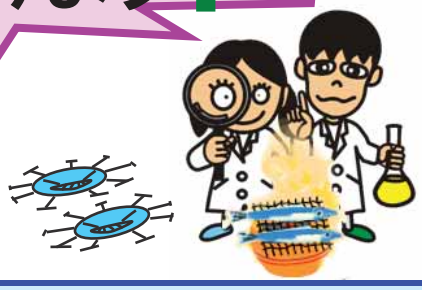
トイレ後、調理前、食事前、下痢をしている子どもや高齢者の排泄物の世話をした後などに。 ● 生野菜はよく洗いましょう。 ● 食品はよく加熱しましょう。中心部まで、75℃ 1分以上が必要です。 ● 調理器具は使用のたびに洗剤でしっかりと洗いましょう。 ● まな板やはしは、生肉などを扱うものとそれ以外に分けましょう。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【10月号】



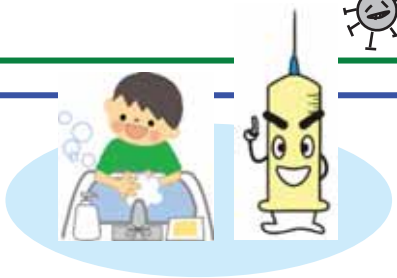
横浜市内の感染症 流行状況

感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
麻しん *	発生		7月以降、報告がありませんでしたが、9月に報告されています。【'19.6号】【予防接種】
腸管出血性大腸菌感染症 *	多発	横ばい	報告が多いです。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
RSウイルス感染症 *	流行	横ばい	以前は冬に流行していましたが、近年、夏から秋にかけて増加しています。
風しん *	多発	横ばい	男性20～40代、女性20～30代に多いです。予防はワクチンが有効です。【'19.4号】【予防接種】
手足口病 *	警報	横ばい	7月にピークとなり、8月以降は減少していますが、まだ警報発令中です。【'19.7号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

■ 東京都では、すでに流行期入りと発表されています。横浜市でも、9月中旬に学級閉鎖が報告されました。

■ インフルエンザ*の特徴は、38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感等の症状が急に出ることです。かかったかな！と思ったら、咳エチケット*を守り早めに受診してください。



■ 予防の基本は正しい手洗い*です。流水と石けんによる手洗いは、ウイルスを物理的に除去する有効な方法です。

■ インフルエンザワクチンには、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある人など、かかると重症化する可能性が高い場合には効果が高いと考えられています。かかりつけ医に相談しましょう。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

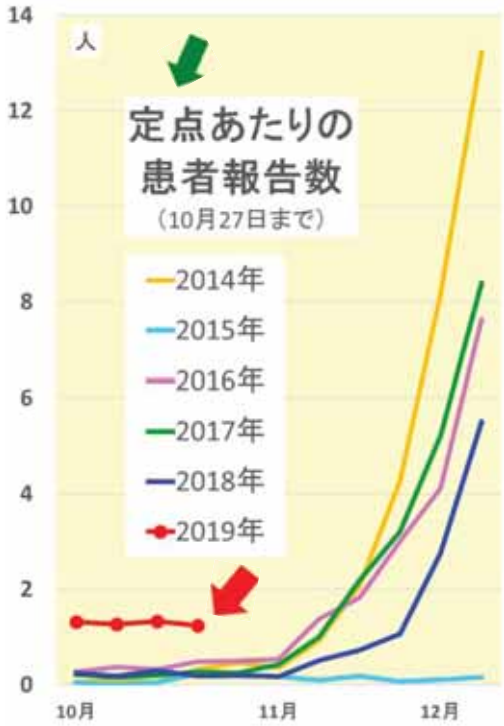
感染症に気をつけよう！

2019年【11月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ *	流行	横ばい	例年より早く10月初めに、定点あたりの患者報告数が「1」を超え、流行開始しました。【'19.10号】
麻しん *	発生		7月以降、報告がありませんでしたが、9月と10月には報告がありました。【'19.6号】【予防接種】
腸管出血性大腸菌感染症 *	多発	横ばい	報告が多いです。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
風しん *	多発	横ばい	男性20～40代、女性20～30代に多いです。予防はワクチンが有効です。【'19.4号】【予防接種】
手足口病 *	警報	横ばい	7月にピークとなり、8月以降は減少していますが、まだ警報発令中です。【'19.7号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



■ 定点とは、毎週、患者数を報告していただく医療機関のことで、インフルエンザの場合は市内に153か所あります。

■ そこから報告された1週間の患者数の平均が、定点あたりの患者報告数です。この数値を用いて、流行状況を把握しています。

■ 予防の基本は、正しい手洗い*の習慣です。

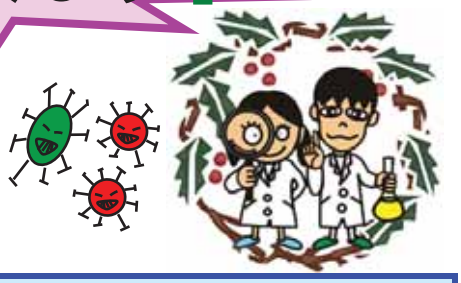
■ かかったかな！と思ったら、咳エチケット*を守り早目に受診してください。重症化を防ぐため、また、他の人にうつさないためにも、無理をせず学校や仕事は休みましょう。

参考ホームページ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

感染症に気をつけよう！

2019年【12月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症 **	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ *	流行	増加	10月初めに流行が始まってから横ばいでしたが、11月中旬から増加しています。【'19.11 号】
風しん *	発生		予防には、ワクチンが有効です。【'19.4 号】【予防接種】【風しん追加対策事業】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

- 11 月下旬から小学校を中心に、学級閉鎖が急増しています。
- 施設等での集団発生も報告されています。

- インフルエンザの特徴は、38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの症状が急に出ることです。
- かかったかな！と思ったら、咳エチケット*を守り早目に受診してください。

- 熱が下がっても人にうつす可能性があります。発症後 3～7 日間は、鼻やのどからウイルスが排出されると言われています。
- 重症化を防ぐため、また、周りの人にうつさないためにも、無理をせず学校***や仕事は休みましょう。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所 ***:日本学校保健会

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

横浜市感染症発生動向調査事業概要
2019 年(令和元年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
2020 年 12 月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可